第６章　地区別のバリアフリー方針

各移動等円滑化促進地区のバリアフリー化促進にあたっては、５章で示したバリアフリー化促進の考え方を基本に、地区の特徴や課題を踏まえて取組を進めることが必要です。

本章では、４章で設定した移動等円滑化促進地区について、具体の位置及び区域、生活関連施設及び生活関連経路を示します。あわせて、地区の特徴や課題を踏まえた各地区のバリアフリー方針を示します。

なお、生活関連施設は令和３年１月１日時点のものを抽出しています。

表 26 移動等円滑化促進地区一覧

促進地区名	立地適正化計画の位置づけ	該当ページ
１．JR/京成幕張本郷地区	地域拠点	53～54
２．JR/京成幕張地区	重要地域拠点	55～56
３．JR 新検見川、京成検見川地区	地域拠点	57～58
４．JR/京成稲毛地区	重要地域拠点	59～60
５．JR 西千葉、京成みどり台地区	地域拠点	61～62
６．千葉都心地区	都心	63～66
７．JR 蘇我地区	都心	67～69
８．JR 浜野地区	地域拠点	70～71
９．JR 鎌取地区	重要地域拠点	72～73
10．JR 誉田地区	地域拠点	74～75
11．JR 土気地区	地域拠点	76～77
12．JR/モノレール都賀地区	重要地域拠点	78～79
13．JR 検見川浜地区	地域拠点	80～81
14．JR 稲毛海岸地区	地域拠点	82～83
15．モノレールスポーツセンター地区	連携地域拠点	84～85
16．モノレール千城台地区	地域拠点	86～87
17．JR 海浜幕張地区	都心	88～90
18．市立青葉病院周辺地区	―	91～92
19．大宮台団地地区	連携地域拠点	93～94
20．こてはし台団地地区	連携地域拠点	95～96
21．さつきが丘団地地区	連携地域拠点	97～98
22．花見川団地地区	連携地域拠点	99～100

1 JR/京成幕張本郷地区

■地区の概要

位置づけ（立地適正化計画）	地域拠点	
面積（促進地区）	37.3ha	
旅客施設（2000 人/日以上）乗降客数	JR 幕張本郷駅	59,112 人（2019 年度）
	京成幕張本郷駅	16,835 人（2019 年度）
バス便数	幕張本郷駅	513（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
生活関連施設数	7 施設	
生活関連経路延長	約 1,450m	
500m 圏人口	9,296 人	※JR 幕張本郷駅を中心に 500m 圏の範囲で算出（2015 年国勢調査 4 次(500m)メッシュ）
500m 圏高齢者数	1,182 人	
500m 圏高齢化率	13%	
従前の基本構想からの主な変更点	・駅南口側は都市機能誘導区域を含むよう地区拡大 ・駅北口側は千葉幕張本郷郵便局を含むよう地区拡大	

※JR の乗降客数は乗車人員公表値を 2 倍した値　バス便数は千葉市立地適正化計画データより

■地区の特徴と課題

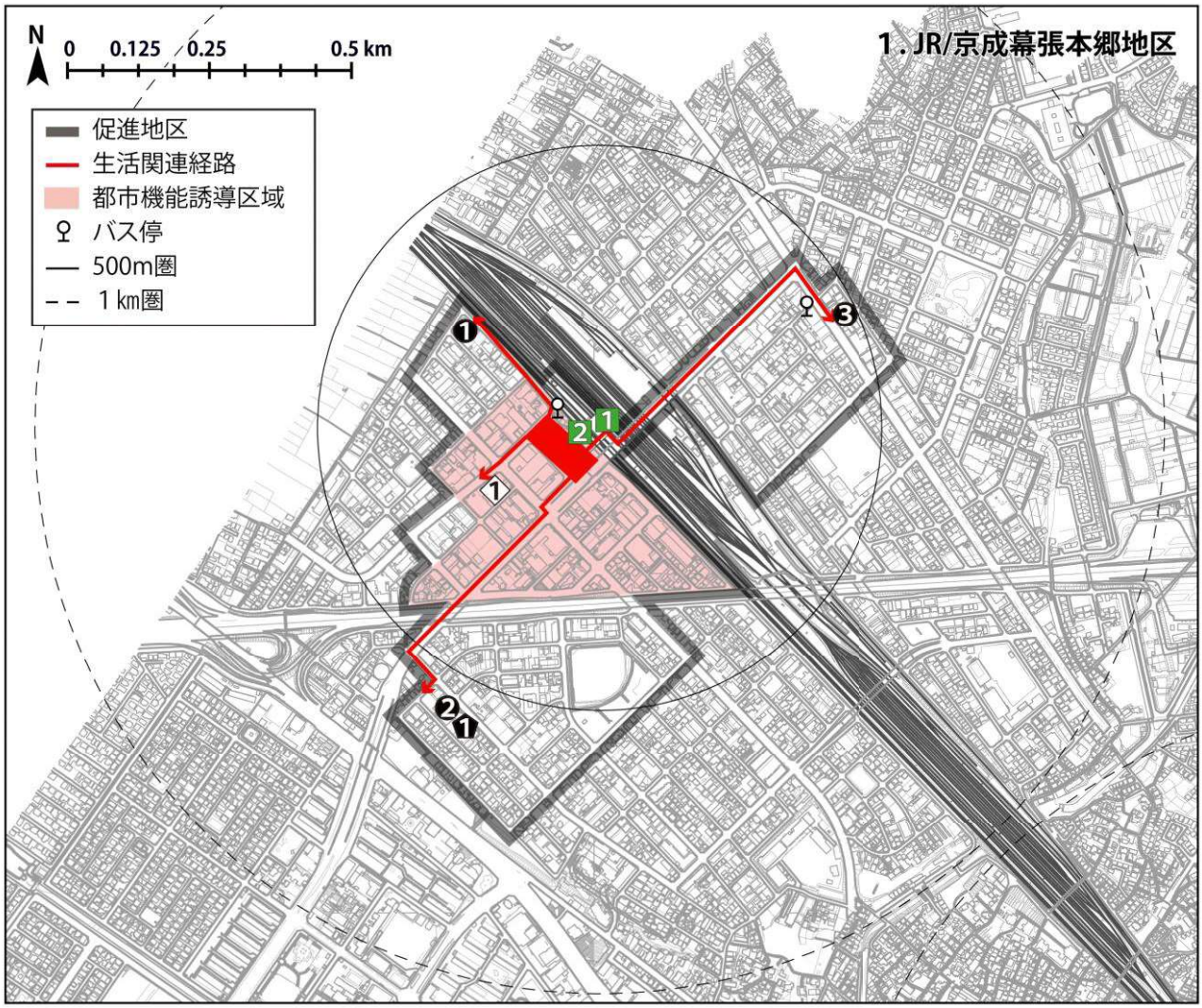
JR/京成幕張本郷地区は駅周辺の人口が促進地区のうちでも比較的多く、高齢化率の低い地区です。駅から 500m 程度の範囲内に、主に地域住民の利用が想定される公共施設や集会施設が立地しています。駅周辺の主な土地利用は住宅であり、南西側に都市機能誘導区域が設定されています。

JR 幕張本郷駅は乗降客数が多い駅です。バス便数も多く、特に海浜幕張・イオンモール方面へのアクセスが充実しています。

駅や道路、主な公共施設は基本的にバリアフリー化されていますが、一部視覚障害者誘導用ブロックの規格が古い箇所があるほか、生活関連施設への案内誘導や道路から施設出入口への移動の連続性が十分ではない状況が見受けられ、経路・施設間の一体的なバリアフリー化が求められます。

■バリアフリー方針

- 駅から主な生活関連施設間の歩行環境の向上を図ります。
- 駅前広場の利便性を向上します。



種別	記号	施設名称
旅客施設	1	JR 幕張本郷駅
	2	京成幕張本郷駅
公共施設	❶	幕張年金事務所
	❷	幕張本郷市民センター　※１
	❸	千葉幕張本郷郵便局
集会施設	❶	幕張本郷公民館　※１
宿泊施設	①	メイプルイン幕張

※は同一建築物内

JR 幕張本郷駅

幕張本郷駅前バス停

2 JR/京成幕張地区

■地区の概要

位置づけ（立地適正化計画）	重要地域拠点	
面積（促進地区）	88.1ha	
旅客施設（2000 人/日以上）乗降客数	JR 幕張駅	31,888 人（2019 年度）
	京成幕張駅	8,497 人（2019 年度）
バス便数	JR 幕張駅	126（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
	京成幕張駅	34（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
生活関連施設数	8 施設	
生活関連経路延長	約 4,310m	
500m 圏人口	8,105 人	※JR 幕張駅を中心に 500m 圏の範囲で算出（2015 年国勢調査 4 次(500m)メッシュ）
500m 圏高齢者数	1,975 人	
500m 圏高齢化率	24%	
従前の基本構想からの主な変更点	・隣接する JR 海浜幕張地区、JR 新検見川、京成検見川地区と重複しないように地区境界を精査	

※JR の乗降客数は乗車人員公表値を 2 倍した値　バス便数は千葉市立地適正化計画データより

■地区の特徴と課題

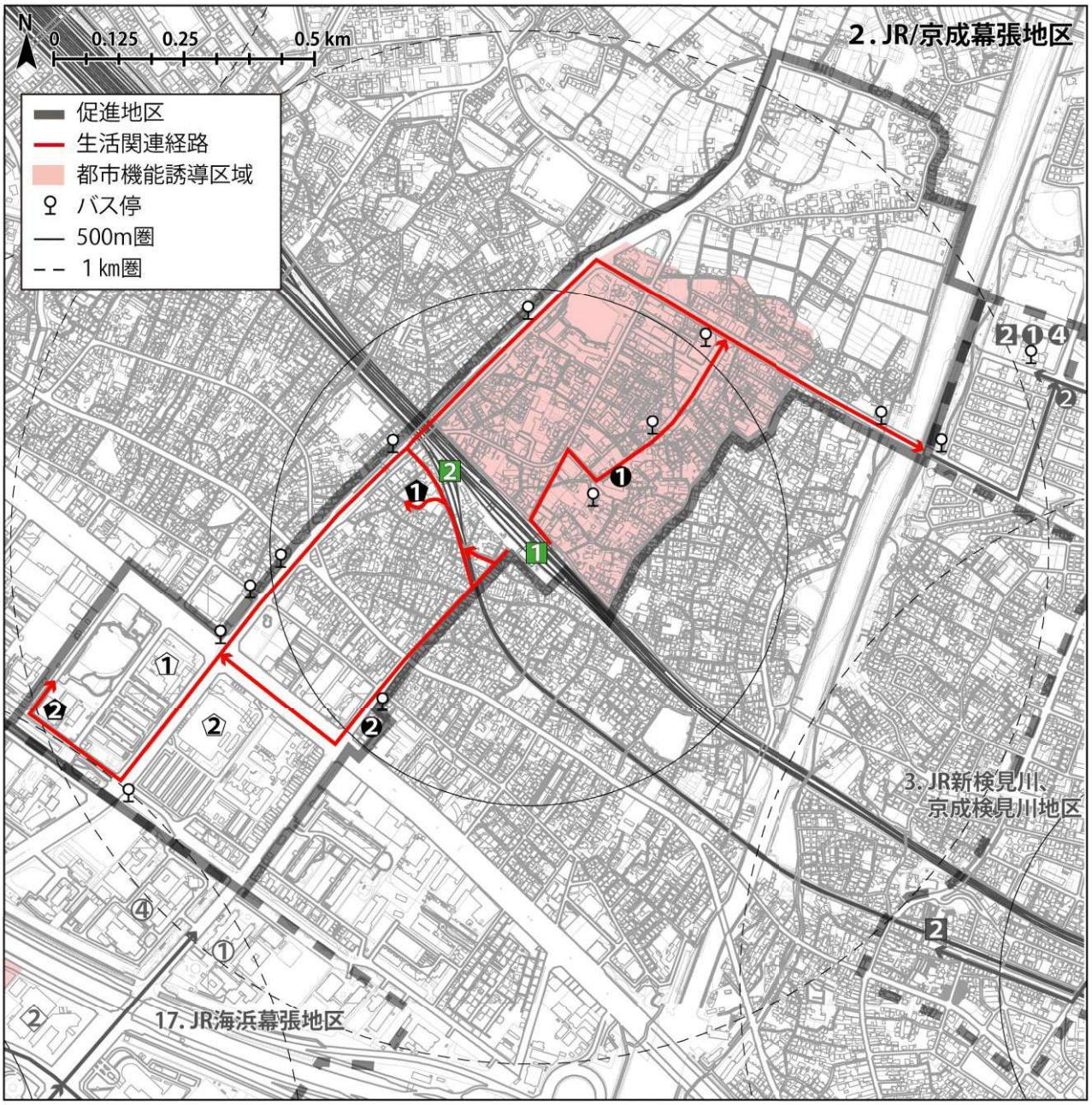
JR/京成幕張地区は、駅周辺の人口が促進地区のうちでも比較的多く、高齢化率は平均的な地区です。駅から 500m 程度の範囲内に、主に地域住民の利用が想定される公共施設や集会施設が立地しています。駅周辺の主な土地利用は住宅で、都市機能誘導区域が設定されている駅北側では東幕張土地区画整理事業が事業中であり、駅前広場の新設が予定されています。

JR 幕張駅は、乗降客数が平均的な駅です。北口では土地区画整理事業の一環として暫定バスロータリーが整備され、バス便数は少ないですが、海浜幕張駅・幕張メッセ方面へのアクセスが充実しています。

駅や道路、主な公共施設は基本的にバリアフリー化されていますが、線路の南北間や鉄道駅間のわかりやすい誘導案内や駅北口側の駅前広場整備による利用環境・安全性の向上が課題となっています。また、JR 新検見川駅との駅徒歩圏が重なっており、花見川区役所周辺などへのバリアフリー化が求められます。

■バリアフリー方針

- 駅から主な生活関連施設間の歩行環境の向上を図ります。
- 関連するまちづくり事業等に合わせた連続的・一体的なバリアフリー化を図ります。



種別	記号	施設名称
旅客施設	1	JR 幕張駅
	2	京成幕張駅
公共施設	❶	幕張北口郵便局
	❷	幕張郵便局
集会施設	❶	幕張公民館
	❷	幕張コミュニティセンター
大規模店舗	①	BOOKOFF スーパーバザー14 号千葉幕張店（Makuhari-BOX CHIBA NISSAN 内）
	②	イトーヨーカドー幕張店

JR 幕張駅

京成幕張駅

3 JR 新検見川、京成検見川地区

■地区の概要

位置づけ（立地適正化計画）	地域拠点	
面積（促進地区）	79.8ha	
旅客施設（2000 人/日以上）乗降客数	JR 新検見川駅	45,406 人（2019 年度）
	京成検見川駅	4,050 人（2019 年度）
バス便数	新検見川駅南口	353（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
	新検見川駅	280（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
生活関連施設数	10 施設	
生活関連経路延長	約 3,230m	
500m 圏人口	8,699 人	※JR 新検見川駅を中心に 500m 圏の範囲で算出（2015 年国勢調査 4 次（500m）メッシュ）
500m 圏高齢者数	1,859 人	
500m 圏高齢化率	21%	
従前の基本構想からの主な変更点	・都市機能誘導区域を含むよう地区拡大 ・京成検見川駅を含むよう地区拡大	

※JR の乗降客数は乗車人員公表値を 2 倍した値　バス便数は千葉市立地適正化計画データより

■地区の特徴と課題

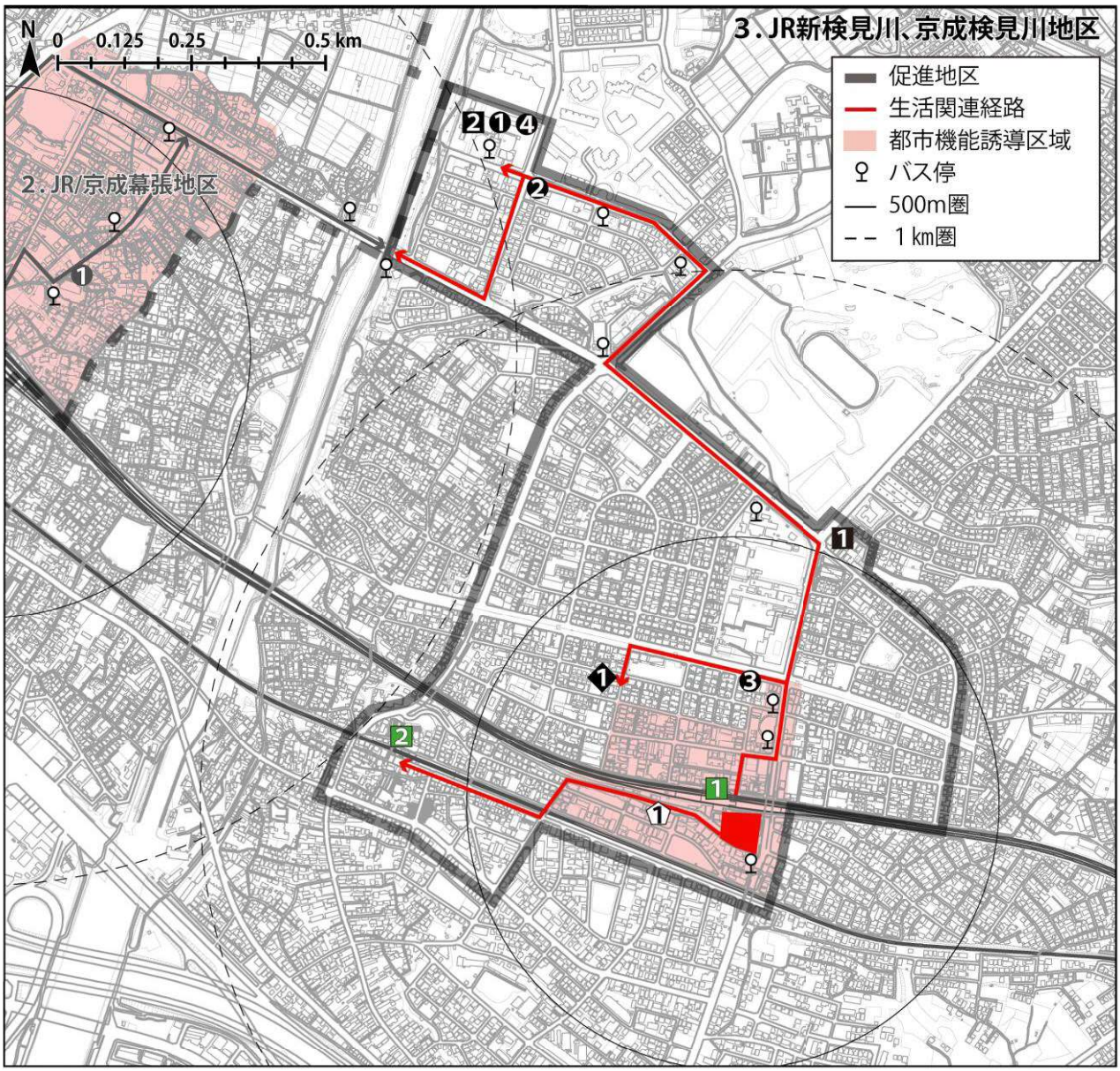
JR 新検見川、京成検見川地区は、駅周辺の人口が促進地区のうちでも比較的多く、高齢化率は平均的な地区です。駅から 500m 程度の範囲内に、大規模店舗が立地しています。また、駅から 1km 以上離れた場所に、花見川区役所など公共施設が集積しています。駅周辺の主な土地利用は住宅であり、駅周辺に都市機能誘導区域が設定されています。

JR 新検見川駅は、乗降客数が比較的多い駅です。バス便数も多く、北口側はさつきが丘団地、西小中台団地、花見川区役所方面へ、南口側からは検見川浜駅方面へのアクセスが充実しています。駅北口からバスロータリーまでは 200m 程離れておりわかりにくい上に、自動車と歩行者が錯綜しているとの声があり、案内の充実及び安全の確保が求められます。また、駅構内の一般トイレ入口には階段があることから、バリアフリー化が求められています。

京成検見川駅周辺は歩道のない道路が多く、安全な移動への配慮が必要です。また、JR 幕張駅との駅徒歩圏が重なっており、花見川区役所周辺などへの連続的な移動への配慮が求められます。

■バリアフリー方針

- 駅から主な生活関連施設間の歩行環境の向上を図ります。
- バス停留所の利用環境の向上、及びバス停留所と生活関連施設間の安全・安心な誘導を図ります。



種別	記号	施設名称
旅客施設	1	JR 新検見川駅
	2	京成検見川駅
公共施設	❶	花見川区役所　※1
	❷	花見川区役所前郵便局
	❸	千葉花園郵便局
	❹	花見川市税出張所　※1
福祉施設	◆1	千葉市あんしんケアセンター花園
保健施設・病院	1	朝日ヶ丘医院
	2	花見川保健福祉センター
大規模店舗	①	西友新検見川店

※は同一建築物内

JR 新検見川駅駅前広場

京成検見川駅

4 JR/京成稲毛地区

■地区の概要

位置づけ（立地適正化計画）	重要地域拠点	
面積（促進地区）	185.0ha	
旅客施設（2000 人/日以上）乗降客数	JR 稲毛駅	99,932 人（2019 年度）
	京成稲毛駅	7,136 人（2019 年度）
	モノレール穴川駅	3,718 人（2019 年度）
バス便数	JR 稲毛駅東口	789（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
	JR 稲毛駅西口	530（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
	京成稲毛駅	49（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
	穴川駅	278（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
生活関連施設数	22 施設	
生活関連経路延長	約 5,600m	
500m 圏人口	12,749 人	※JR 稲毛駅を中心に 500m 圏の範囲で算出（2015 年国勢調査 4 次(500m)メッシュ）
500m 圏高齢者数	2,180 人	
500m 圏高齢化率	17%	
従前の基本構想からの主な変更点	・都市機能誘導区域を含むよう地区拡大 ・京成稲毛駅、稲毛公民館（稲毛公園）を含むよう地区拡大 ・穴川駅を含むよう地区拡大	

※JR の乗降客数は乗車人員公表値を 2 倍した値　バス便数は千葉市立地適正化計画データより

■地区の特徴と課題

JR/京成稲毛地区は、駅周辺の人口が促進地区のうちでも多く、高齢化率の低い地区です。駅から 500m 程度の範囲内に、病院や福祉施設、大規模店舗が集積しています。また、駅から 1km 以上離れた場所に稲毛区役所をはじめ公共施設が集積しています。

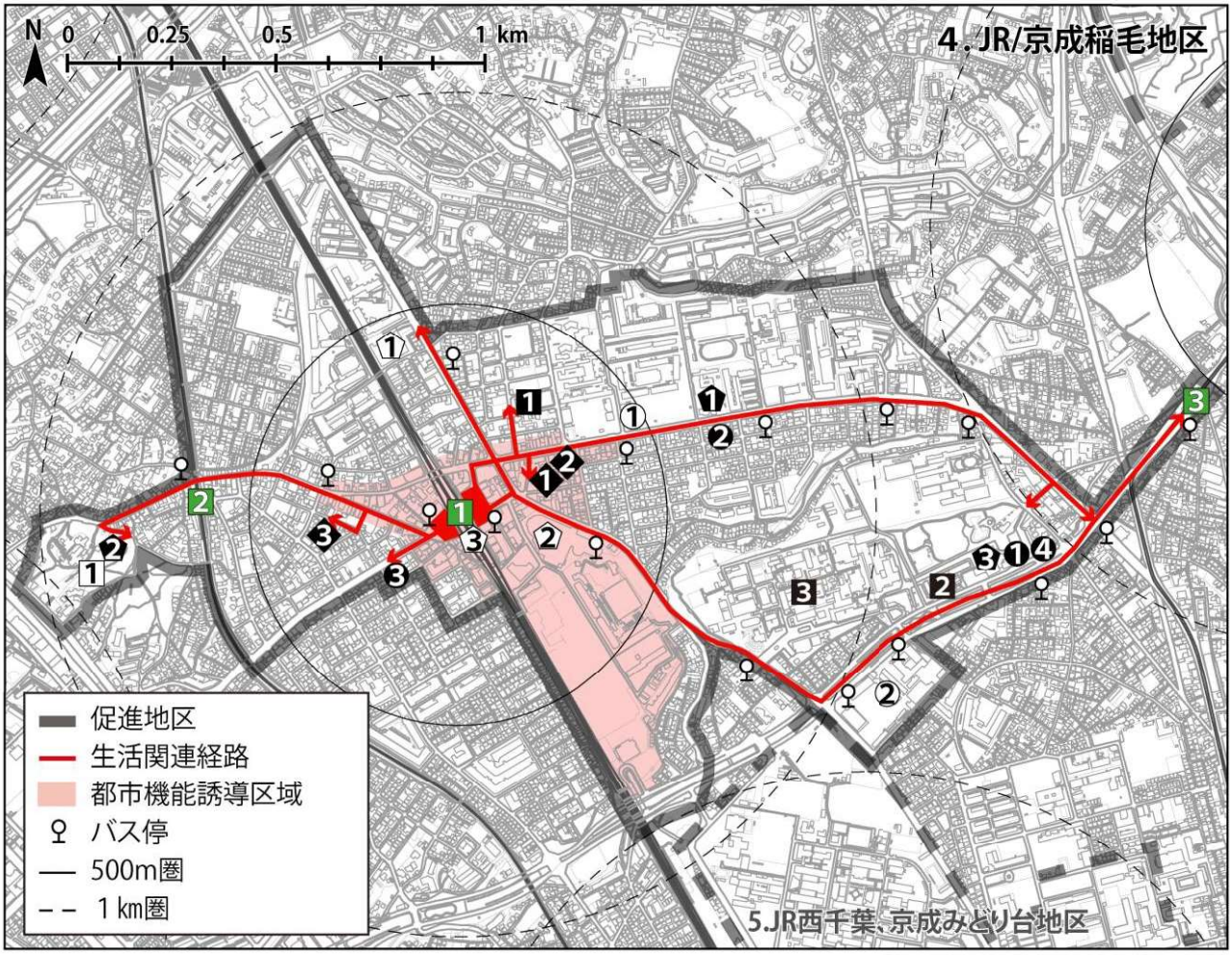
駅周辺の主な土地利用は住宅であり、JR 稲毛駅の南東側に設定されている都市機能誘導区域内の大規模倉庫跡地周辺では、市街地再開発事業に向けた検討が進んでいます。

JR 稲毛駅は乗降客数が多い駅です。バス便数も JR 千葉駅に次いで多く、駅西側は稲毛海岸駅方面へ、駅東側は稲毛区役所方面へのアクセスが充実しています。東口駅前広場は再整備に向けた検討が行われています。

稲毛区役所方面へはバス利用が多いことが想定されるため、区役所付近のバス停の利便性向上やわかりやすい案内誘導が求められます。また、JR 稲毛駅と京成稲毛駅間を結ぶ道路は歩道がなく交通量も多いため、歩行環境の改善が求められます。

■バリアフリー方針

- 駅から主な生活関連施設間の歩行環境の向上を図ります。
- 関連するまちづくり事業等に合わせた連続的・一体的なバリアフリー化を図ります。
- バス停留所の利用環境の向上、及びバス停留所と生活関連施設間の安全・安心な誘導を図ります。



種別	番号	施設名称	種別	番号	施設名称
旅客施設	1	JR 稲毛駅	保健施設・病院	1	稲毛病院
	2	京成稲毛駅		2	稲毛保健福祉センター
	3	モノレール穴川駅		3	独立行政法人 放射線医学総合研究所
公共施設	❶	稲毛区役所　※1	文化・教養・教育施設	①	稲毛図書館
	❷	千葉小仲台郵便局		②	敬愛大学
	❸	稲毛駅前郵便局	大規模店舗	①	マルエツ稲毛店
	❹	稲毛市税出張所　※1		②	イオン稲毛店
集会施設	❶	小中台公民館		③	ペリエ稲毛
	❷	稲毛公民館	都市公園	1	稲毛公園
	❸	穴川コミュニティセンター			
福祉施設	◆1	子育てひろば・いなげ（稲毛保育園内）			
	◆2	千葉市あんしんケアセンター小仲台			
	◆3	千葉市あんしんケアセンター稲毛			

※は同一建築物内

JR 稲毛駅駅前広場

5 JR 西千葉、京成みどり台地区

■地区の概要

位置づけ（立地適正化計画）	地域拠点	
面積（促進地区）	122.0ha	
旅客施設（2000 人/日以上）乗降客数	JR 西千葉駅	44,000 人（2019 年度）
	京成みどり台駅	7,837 人（2019 年度）
	京成西登戸駅	2,636 人（2019 年度）
バス便数	西千葉駅	186（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
	西千葉駅西口	8（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
生活関連施設数	12 施設	
生活関連経路延長	約 3,010m	
500m 圏人口	7,514 人	※JR 西千葉駅を中心に 500m 圏の範囲で算出（2015 年国勢調査 4 次(500m)メッシュ）
500m 圏高齢者数	1,347 人	
500m 圏高齢化率	18%	
従前の基本構想からの主な変更点	・都市機能誘導区域、京成西登戸駅を含むよう地区拡大	

※JR の乗降客数は乗車人員公表値を 2 倍した値　バス便数は千葉市立地適正化計画データより

■地区の特徴と課題

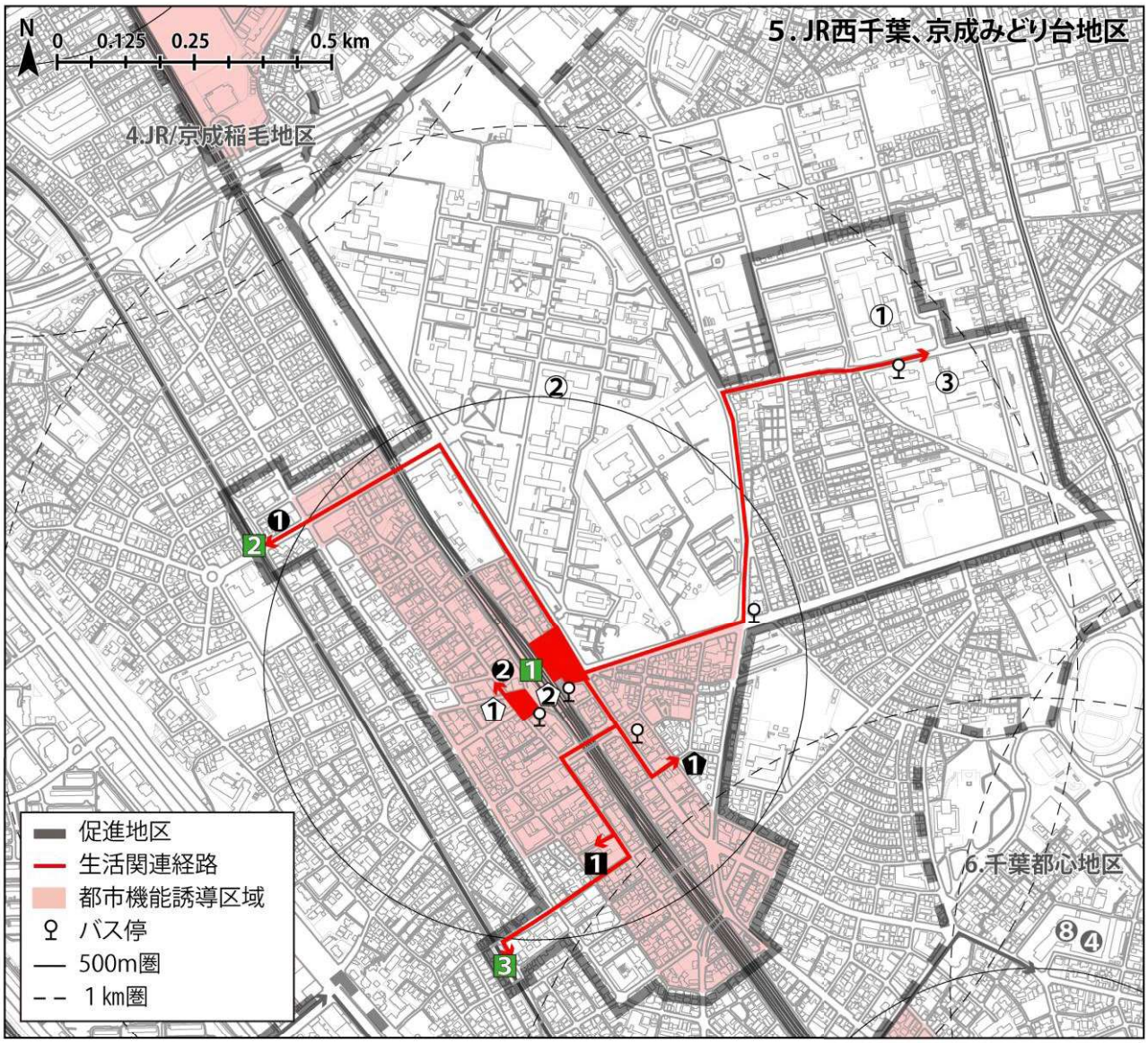
JR 西千葉、京成みどり台地区は、駅周辺の人口が促進地区のうちでも平均的となっており、高齢化率が比較的低い地区です。駅から 500m 程度の範囲内に、病院や大学、大規模店舗などが立地しています。駅周辺の主な土地利用は住宅及び公共公益用地（大学）であり、駅周辺に南北に長く都市機能誘導区域が設定されています。

JR 西千葉駅は、乗降客数が比較的多い駅です。バス便数は比較的少なく、北口側から作草部駅方面へアクセスしています。京成みどり台駅には路線バスがありません。

道路や主な公共施設は基本的にバリアフリー化されていますが、JR 西千葉駅南北の駅前広場は整備時期が古く、視覚障害者誘導用ブロックの規格や敷設方法が不適切な状況があったり、身体障害者用乗降場がない（南口）などの課題があります。また、改札階が半地下となっており、長いスロープでのアプローチとなっていることから、駅前広場と駅の接続部における更なるバリアフリー化が求められます。

■バリアフリー方針

- 駅から主な生活関連施設間の歩行環境の向上を図ります。
- 駅前広場の利便性を向上します。



種別	番号	施設名称
旅客施設	1	JR 西千葉駅
	2	京成みどり台駅
	3	京成西登戸駅
公共施設	❶	千葉緑町郵便局
	❷	西千葉駅前郵便局
集会施設	❶	中央コミュニティセンター松波分室
保健施設・病院	1	増田病院
文化・教養・教育施設	①	千葉経済大学
	②	国立大学法人千葉大学西千葉キャンパス
	③	千葉経済大学短期大学部
大規模店舗	①	西友西千葉店
	②	ペリエ西千葉

JR 西千葉駅駅前広場

京成みどり台駅

6 千葉都心地区

■地区の概要

位置づけ（立地適正化計画）	都心		
面積（促進地区）	607.0ha		
旅客施設（2000 人/日以上）乗降客数	JR 千葉駅	215,658 人（2019 年度）	
	JR 東千葉駅	5,292 人（2019 年度）	
	JR 千葉みなと駅	34,398 人（2019 年度）	
	JR 本千葉駅	23,802 人（2019 年度）	
	京成千葉駅	29,464 人（2019 年度）	
	京成千葉中央駅	18,321 人（2019 年度）	
	京成新千葉駅	2,025 人（2019 年度）	
	モノレール千葉みなと駅	16,653 人（2019 年度）	
	モノレール市役所前駅	5,186 人（2019 年度）	
	モノレール千葉駅	26,815 人（2019 年度）	
	モノレール葭川公園駅	2,187 人（2019 年度）	
バス便数	千葉駅東口	1,179（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）	
	千葉駅西口	150（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）	
	千葉駅北口	2（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）	
	千葉みなと駅	102（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）	
	千葉みなと駅西口	38（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）	
	本千葉駅前	46（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）	
	千葉中央駅	29（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）	
	千葉中央駅西口	18（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）	
	千葉中央駅東口	18（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）	
生活関連施設数	99 施設		
生活関連経路延長	約 25,670m		
500m 圏人口	5,568 人	※JR 千葉駅を中心に 500m 圏の範囲で算出（2015 年国勢調査 4 次(500m)メッシュ）	
500m 圏高齢者数	1,068 人		
500m 圏高齢化率	19%		
従前の基本構想からの主な変更点	・東千葉駅東側の施設（病院・公民館等）を含むよう地区拡大		

※JR の乗降客数は乗車人員公表値を 2 倍した値　バス便数は千葉市立地適正化計画データより

■地区の特徴と課題

千葉都心地区は、駅周辺の人口が促進地区のうちでも平均的で、高齢化率が比較的低い地区です。駅周辺の土地利用は商業・事務所系となっており、市内で最大の都市機能誘導区域が設定されています。千葉駅から県庁周辺、市役所からケーズハーバー周辺に、主要公共施設、文化施設、病院、大規模店舗、宿泊施設などが集積しています。

JR 千葉駅をはじめ JR 線 4 駅、京成線 3 駅、モノレール 7 駅、旅客船ターミナルの 15 の旅客施設が立地し、そのうち 9 施設が 3000 人以上/日の乗降客数となっています。

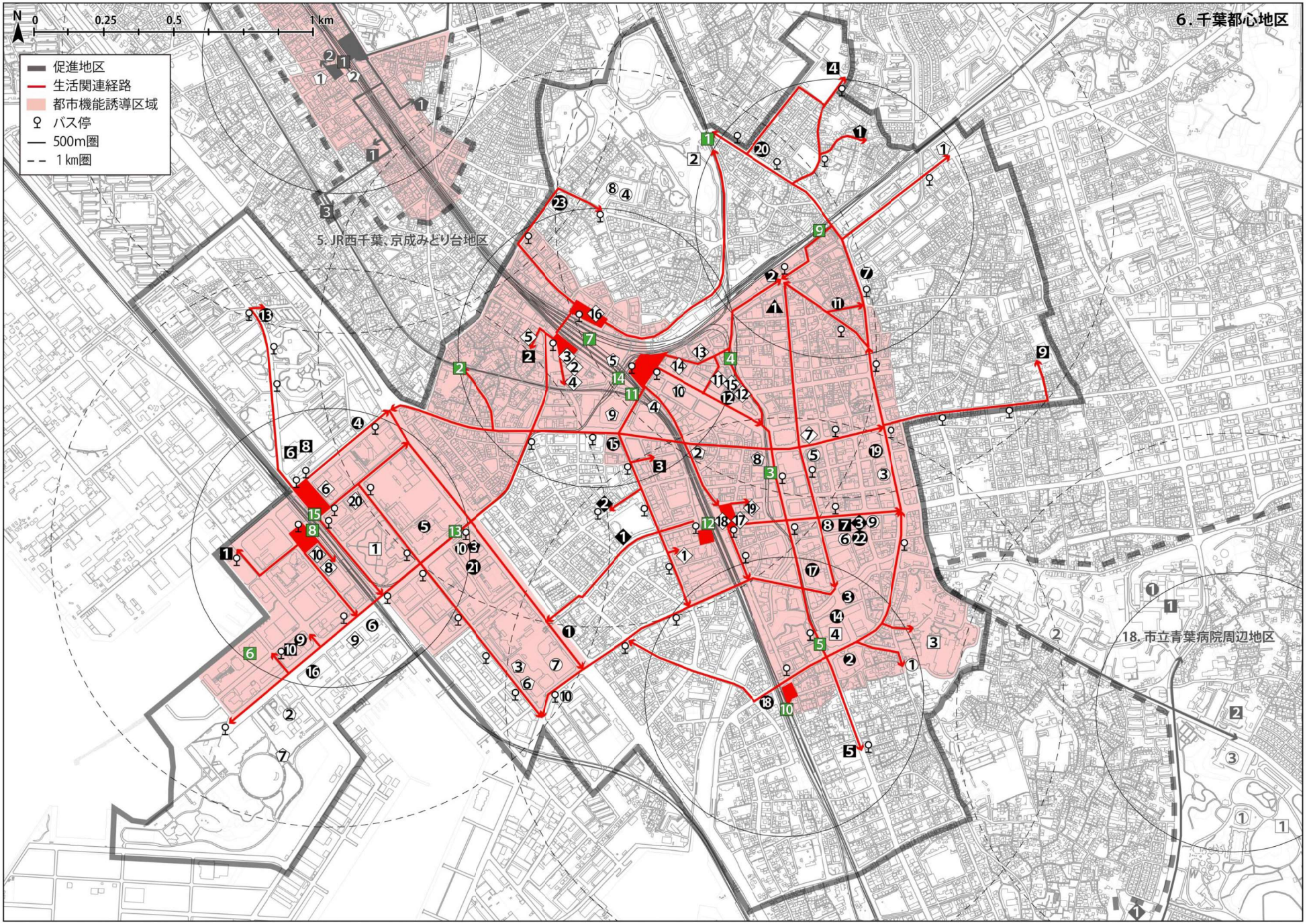
JR 千葉駅は、市内で乗降客数が最も多い駅です。バス便数も最も多くなっています。

駅や道路、主な公共施設は基本的にバリアフリー化され充実していますが、一部、歩道上の勾配や視覚障害者誘導用ブロックの劣化、施設間や施設内の案内誘導等、移動の連続性が十分ではない状況も見受けられ、経路・施設の一体的なバリアフリー化のさらなる推進が求められます。また、千葉市の中心として都市整備は一定レベルの水準に達している中で、情報提供、案内誘導、心のバリアフリーの充実などソフト施策の充実が図られることが期待されています。

地区内では駅周辺の再開発事業や新庁舎整備、千葉公園の再整備等に向けて検討が進められており、これらの取組と連携しバリアフリーのまちづくりの充実が図られることが期待されます。

■バリアフリー方針

- 駅から主な生活関連施設間の歩行環境の向上を図ります。
- 関連するまちづくり事業等に合わせた連続的・一体的なバリアフリー化を図ります。


6. 千葉都心地区
N
0
0.25
0.5
1 km
促進地区
生活関連経路
都市機能誘導区域
バス停
500m圏
1 km圏
5. JR西千葉、京成みどり台地区
18. 市立青葉病院周辺地区

種別	番号	施設名称
旅客施設	1	モノレール千葉公園駅
	2	京成新千葉駅
	3	モノレール葭川公園駅
	4	モノレール栄町駅
	5	モノレール県庁前駅
	6	ケーズハーバー
	7	JR 千葉駅
	8	JR 千葉みなと駅
	9	JR 東千葉駅
	10	JR 本千葉駅
	11	京成千葉駅
	12	京成千葉中央駅
	13	モノレール市役所前駅
	14	モノレール千葉駅
	15	モノレール千葉みなと駅
公共施設	❶	新宿郵便局
	❷	千葉県警察本部
	❸	千葉県庁
	❹	千葉公共職業安定所
	❺	千葉市役所
	❻	千葉中央警察署
	❼	千葉東税務署
	❽	中央区役所　※1
	❾	日本年金機構　千葉年金事務所
	❿	千葉 CC プラザ内郵便局　※2
	⓫	千葉院内郵便局
	⓬	千葉駅前大通り郵便局
	⓭	千葉ガーデンタウン郵便局
	⓮	千葉県庁内郵便局
	⓯	千葉新町郵便局
	⓰	千葉中央郵便局
	⓱	千葉中央四郵便局
	⓲	本千葉駅前郵便局
	⓳	若葉郵便局
	⓴	千葉椿森郵便局
	㉑	市役所前市民センター　※2
	㉒	中央市税出張所
	㉓	千葉市消費生活センター

種別	番号	施設名称
集会施設	❶	椿森公民館
	❷	千葉市民会館
	❸	中央コミュニティセンター　※2
福祉施設	❶	にこにこルーム（新宿保育所内）
	❷	千葉市あんしんケアセンター中央
	❸	千葉市社会福祉協議会　※1
保健施設・病院	1	千葉みなと病院
	2	三愛記念病院
	3	井上記念病院
	4	国立病院機構千葉医療センター
	5	柏戸病院
	6	総合保健医療センター　※3
	7	中央保健福祉センター　※1
	8	千葉市保健所　※3
	9	医療法人社団福生会　斎藤労災病院
	10	千葉みなとリハビリテーション病院
文化・教養・教育施設	①	県立中央図書館
	②	県立美術館
	③	千葉市美術館
	④	千葉市生涯学習センター　※4
	⑤	文化センター
	⑥	きぼーる　※1
	⑦	千葉ポートアリーナ
	⑧	千葉市中央図書館　※4
	⑨	千葉市科学館　※1
	⑩	千葉職業能力開発短期大学校
大規模店舗	①	BOOKOFFスーパーバザー東千葉祐光
	②	千葉EXビル
	③	ポートタウン
	④	千葉ショッピングセンター　C・one
	⑤	ペリエ千葉店
	⑥	千葉ポートスクエア
	⑦	千葉ポートパーク
	⑧	日土地千葉ビル
	⑨	株式会社そごう・西武　そごう千葉店
	⑩	塚本大千葉ビル　ヨドバシカメラ　千葉店

種別	番号	施設名称
宿泊施設	①	ホテルシュランザCHIBA
	②	ホテルサンシティ千葉
	③	ホテルサンルート千葉
	④	バーディーホテル千葉
	⑤	HOTEL　LiVEMAX　千葉駅前
	⑥	公立学校共済組合千葉宿泊所　ポートプラザちば
	⑦	三井ガーデンホテル千葉
	⑧	HOTEL　LiVEMAX　千葉みなと駅前
	⑨	千葉県市町村職員共済会館　オークラ千葉ホテル
	⑩	東横イン千葉みなと駅前
	⑪	ベッセルイン千葉駅前
	⑫	東横イン千葉駅前
	⑬	東横イン千葉駅東口
	⑭	ダイワロイネットホテル千葉駅前
	⑮	千葉ワシントンホテル
	⑯	スーパーホテル千葉駅前
	⑰	ダイワロイネットホテル千葉中央
	⑱	京成ホテルミラマーレ
	⑲	HOTEL　BaliAn　RESORT 千葉中央店
	⑳	ホテルテトラ千葉みなと駅前
都市公園	1	みなと公園
	2	千葉公園
	3	亥鼻公園
	4	羽衣公園
駐車場	P	栄町立体駐車場

※は同一建築物内

JR 千葉駅東口

JR 千葉駅駅前広場

7 JR 蘇我地区

■地区の概要

位置づけ（立地適正化計画）	都心	
面積（促進地区）	227.0ha	
旅客施設（2000 人/日以上）乗降客数	JR 蘇我駅	68,378 人（2019 年度）
バス便数	蘇我駅東口	156（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
	蘇我駅東入口	151（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
	蘇我駅西口	45（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
	蘇我駅入口	1（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
生活関連施設数	19 施設	
生活関連経路延長	約 6,720m	
500m 圏人口	6,683 人	※JR 蘇我駅を中心に 500m 圏の範囲で算出 （2015 年国勢調査 4 次(500m)メッシュ）
500m 圏高齢者数	1,060 人	
500m 圏高齢化率	16%	
従前の基本構想からの主な変更点	・千葉宮崎郵便局を含むよう地区拡大 ・京成千葉寺駅までの経路を含むよう地区拡大	

※JR の乗降客数は乗車人員公表値を２倍した値　バス便数は千葉市立地適正化計画データより

■地区の特徴と課題

JR 蘇我地区は、駅周辺の人口が促進地区のうちでも平均的で、高齢化率が低い地区です。駅から 500m 程度の範囲内に主に公共施設、ホテル、病院が立地し、1km 圏の海側には、スポーツ施設やショッピングセンターが立地しています。

駅周辺の主な土地利用は、商業・事務所系となっており、駅を中心に都市機能誘導区域が設定されています。

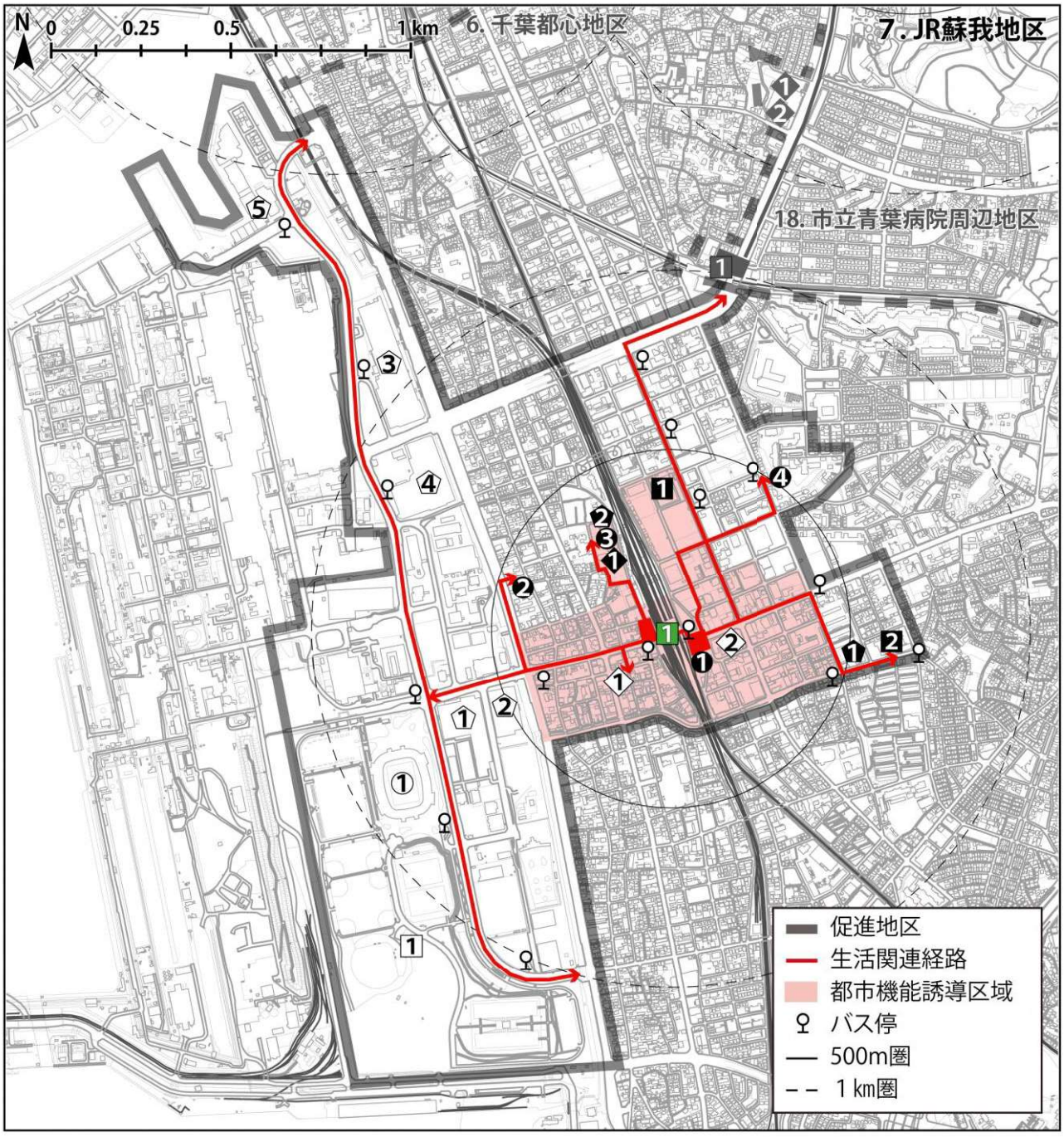
JR 蘇我駅の乗降客数及びバス便数は多く、東口からは JR 千葉駅や JR 鎌取駅方面へ、西口からは蘇我スポーツ公園方面へのアクセスが充実しています。また、駅とハーバーシティ蘇我間はノンステップバスによる無料巡回バスが運行されています。

駅や主な公共施設は基本的にバリアフリー化されていますが、東口側では歩道がない道路や狭い道路が多く、視覚障害者誘導用ブロックがないなどバリアフリー化されていない区間があり、駅前広場のトイレは狭く少ないことから改善が求められています。また、東口駅前広場や西口の歩道橋部など、一部視覚障害者誘導用ブロックの規格が古い箇所や劣化が目立つ箇所があります。

蘇我スポーツ公園の整備が進んでおり、整備の進捗に合わせて更なる来訪者の増加が見込まれます。また、東口駅前広場再整備に関する検討が進んでいます。これらの取組と連携しバリアフリーのまちづくりの充実が図られることが期待されます。

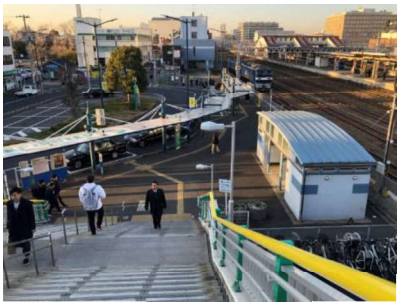
■バリアフリー方針

- 駅から主な生活関連施設間の歩行環境の向上を図ります。
- 関連するまちづくり事業等に合わせた連続的・一体的なバリアフリー化を図ります。
- バス停留所の利用環境の向上、及びバス停留所と生活関連施設間の安全・安心な誘導を図ります。



種別	番号	施設名称
旅客施設	1	JR 蘇我駅
公共施設	❶	千葉南公共職業安定所
	❷	千葉今井郵便局
	❸	蘇我駅前連絡所　※
	❹	千葉宮崎郵便局
集会施設	❶	宮崎公民館
	❷	蘇我コミュニティセンター　※
福祉施設	◆1	蘇我いきいきセンター
保健施設・病院	1	千葉メディカルセンター
	2	三愛記念そが病院
文化・教養・教育施設	①	フクダ電子アリーナ
大規模店舗	⓵	GLOBO（グローボ）
	⓶	ケーズデンキ　ハーバーシティ蘇我本店
	⓷	アリオ蘇我
	⓸	ホームズ蘇我店
	⓹	フェスティバルウォーク蘇我
宿泊施設	◇1	アーバンホテル三幸
	◇2	ドーミーイン千葉　City　Soga
都市公園	1	千葉市蘇我スポーツ公園

※は同一建築物内



JR 蘇我駅

フクダ電子アリーナ
（千葉市蘇我スポーツ公園内）

JR 蘇我駅西口歩道橋

ハーバーシティ蘇我無料巡回バス

8 JR 浜野地区

■地区の概要

位置づけ（立地適正化計画）	地域拠点	
面積（促進地区）	40.5ha	
旅客施設（2000 人/日以上）乗降客数	JR 浜野駅	15,038 人（2019 年度）
バス便数	浜野駅東口	44（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
	浜野駅前	17（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
生活関連施設数	5 施設	
生活関連経路延長	約 710m	
500m 圏人口	5,297 人	※JR 浜野駅を中心に 500m 圏の範囲で算出（2015 年国勢調査 4 次(500m)メッシュ）
500m 圏高齢者数	1,191 人	
500m 圏高齢化率	22%	
従前の基本構想からの主な変更点	変更なし	

※JR の乗降客数は乗車人員公表値を 2 倍した値　バス便数は千葉市立地適正化計画データより

■地区の特徴と課題

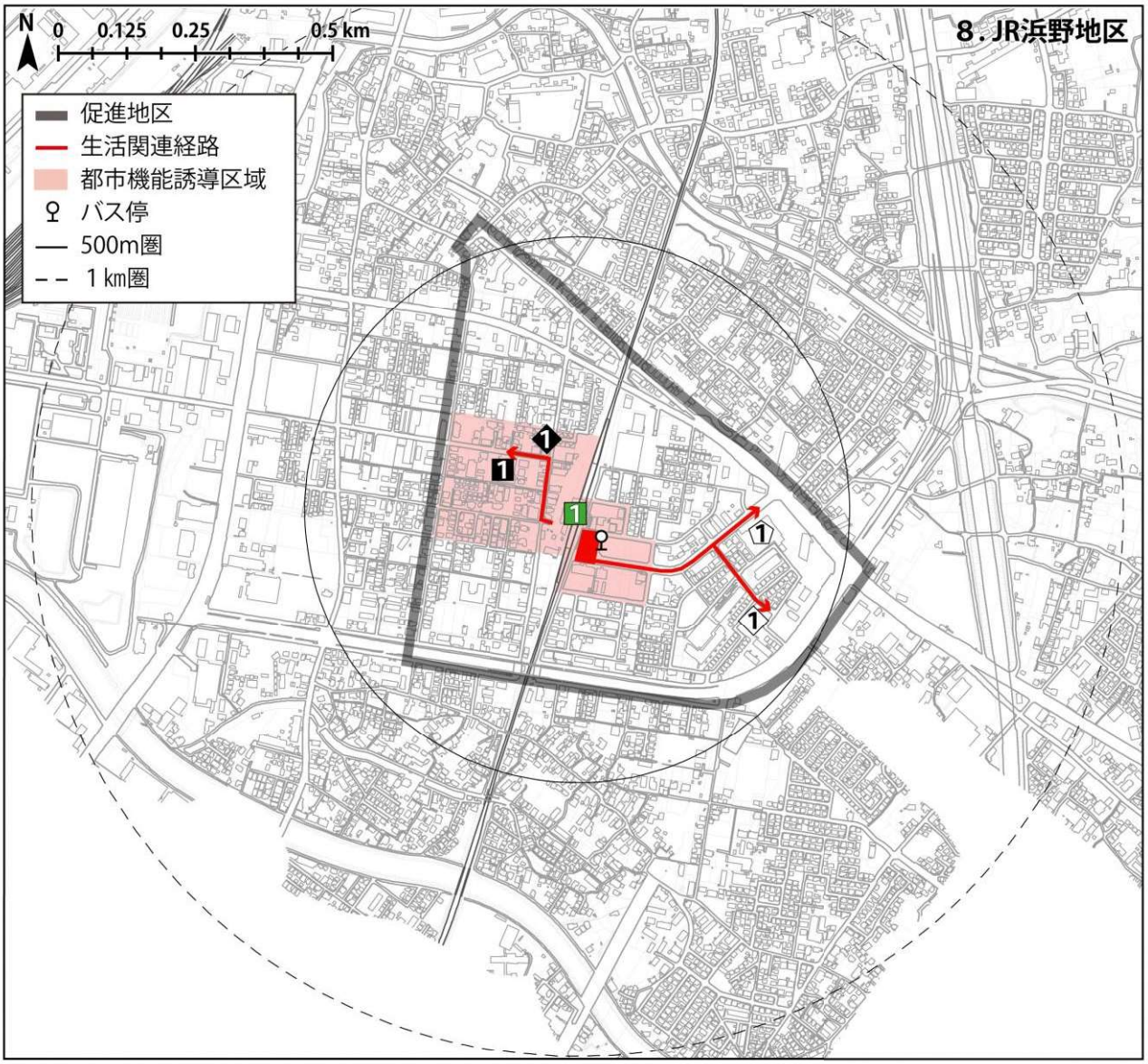
JR 浜野地区は、駅周辺の人口及び高齢化率が促進地区のうちでも平均的な地区です。駅から 500m 程度の範囲内に、病院、福祉施設が立地しています。駅周辺の主な土地利用は住宅であり、駅を中心にコンパクトな都市機能誘導区域が設定されています。

JR 浜野駅の乗降客数は平均的で、バス便数は少なく、鎌取駅方面、菊間団地方面へアクセスしています。

駅や駅前広場、主な施設は基本的にバリアフリー化されていますが、西口側の経路は歩道がない道路や狭い道路であり、バリアフリー化は困難な状況です。東側では、新たに生活関連施設に追加したホテルへの経路で、視覚障害者誘導用ブロックが未整備となっています。駅周辺に案内表示が少なく、案内の充実が求められます。

■バリアフリー方針

- 駅から主な生活関連施設間の歩行環境の向上を図ります。
- 駅前広場の利便性を向上します。



種別	番号	施設名称
旅客施設	1	JR 浜野駅
福祉施設	1	千葉市あんしんケアセンター浜野
保健施設・病院	1	石郷岡病院
大規模店舗	1	ベルク千葉浜野店
宿泊施設	1	チサンイン千葉浜野R16

JR 浜野駅

JR 浜野駅東口駅前広場

9 JR 鎌取地区

■地区の概要

位置づけ（立地適正化計画）	重要地域拠点	
面積（促進地区）	76.0ha	
旅客施設（2000 人/日以上）乗降客数	JR 鎌取駅	41,386 人（2019 年度）
バス便数	鎌取駅南口	252（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
	鎌取駅北口	202（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
生活関連施設数	11 施設	
生活関連経路延長	約 3,330m	
500m 圏人口	5,682 人	※JR 鎌取駅を中心に 500m 圏の範囲で算出（2015 年国勢調査 4 次(500m)メッシュ）
500m 圏高齢者数	822 人	
500m 圏高齢化率	14%	
従前の基本構想からの主な変更点	有吉貝塚公園を含むよう地区拡大	

※JR の乗降客数は乗車人員公表値を 2 倍した値　バス便数は千葉市立地適正化計画データより

■地区の特徴と課題

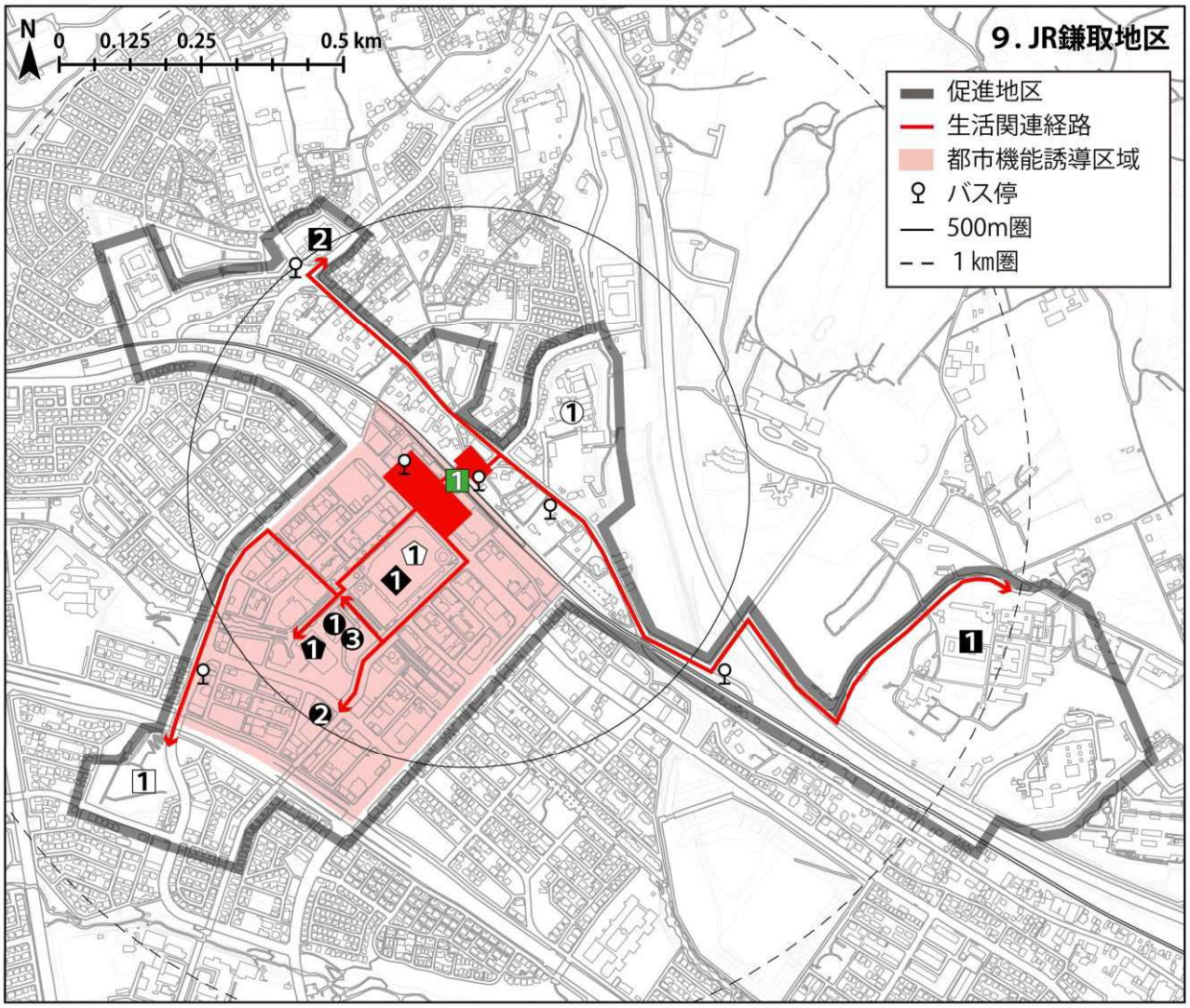
JR 鎌取地区は、駅周辺の人口が促進地区のうちでも平均的で、高齢化率が低い地区です。駅南口は歩行者専用道となっており、公共施設、集会施設、福祉施設、大規模店舗が集積しています。1km 圏域内に広域からの利用が想定される下総精神医療センターが立地しています。駅周辺の主な土地利用は商業・業務系、中高層住宅が多く、駅南側に都市機能誘導区域が設定されています。

JR 鎌取駅の乗降客数は平均的です。バス便数は比較的多く、千葉・蘇我駅方面や誉田駅方面などへアクセスしています。

南口側の駅や道路、施設は基本的に歩道が広く、視覚障害者誘導用ブロックが整備されているなどバリアフリー化されていますが、デッキ構造となっていることからバリアフリールートの案内の充実などが必要です。北口側では大網街道の歩道が狭く、また下総精神医療センター方面への経路は路側帯もない道路となっており、歩行環境の改善が求められます。

■バリアフリー方針

- 駅から主な生活関連施設間の歩行環境の向上を図ります。
- 駅前広場の利便性を向上します。



種別	番号	施設名称
旅客施設	1	JR 鎌取駅
公共施設	❶	緑区役所　※1
	❷	千葉緑郵便局
	❸	緑市税出張所　※1
集会施設	❶	鎌取コミュニティセンター
福祉施設	❶	千葉市あんしんケアセンター鎌取　※2
保健施設・病院	1	国立病院機構下総精神医療センター
	2	緑保健福祉センター
文化・教養・教育施設	①	県立千葉聾学校
大規模店舗	①	イオンスタイル鎌取　※2
都市公園	1	有吉貝塚公園

※は同一建築物内

JR 鎌取駅

JR 鎌取駅前ペデストリアンデッキ

10 JR 誉田地区

■地区の概要

位置づけ（立地適正化計画）	地域拠点	
面積（促進地区）	63.9ha	
旅客施設（2000 人/日以上）乗降客数	JR 誉田駅	14,068 人（2019 年度）
バス便数	誉田駅南口	86（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
	誉田駅北口	2（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
生活関連施設数	4 施設	
生活関連経路延長	約 1,880m	
500m 圏人口	4,265 人	※JR 誉田駅を中心に 500m 圏の範囲で算出（2015 年国勢調査 4 次(500m)メッシュ）
500m 圏高齢者数	1,298 人	
500m 圏高齢化率	30%	
従前の基本構想からの主な変更点	誉田駅前郵便局、誉田市民センターを含むよう地区拡大	

※JR の乗降客数は乗車人員公表値を 2 倍した値　バス便数は千葉市立地適正化計画データより

■地区の特徴と課題

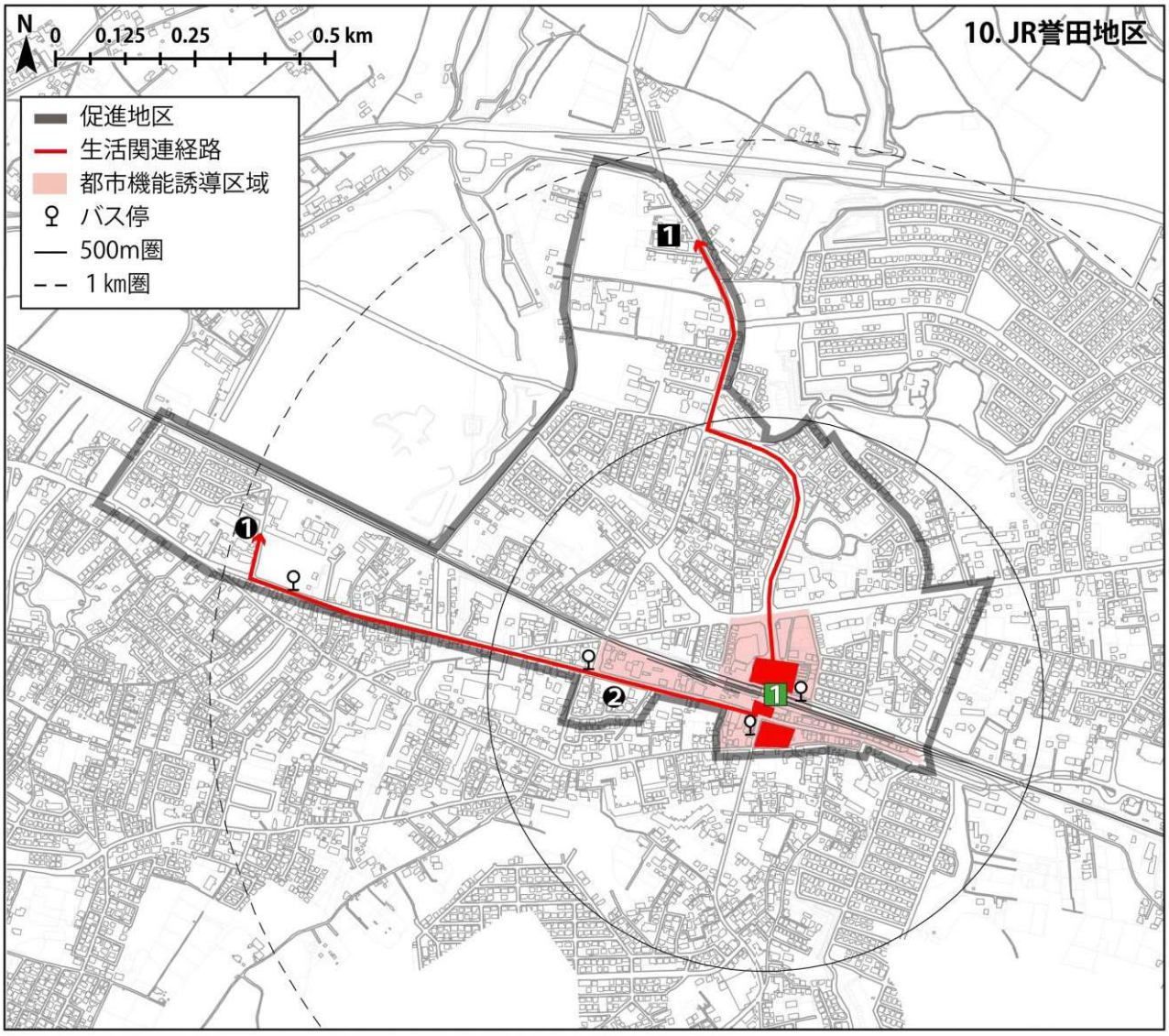
JR 誉田地区は、駅周辺の人口が促進地区のうちでも少なく、高齢化率が比較的高い地区です。駅から 500m 程度の範囲内に郵便局、1km 圏内に病院、市民センターが立地しています。駅周辺の主な土地利用は住宅となっており、駅周辺にコンパクトに都市機能誘導区域が設定されています。

JR 誉田駅の乗降客数は平均的です。バス便数は少なく、鎌取駅・蘇我駅方面、越智地域へアクセスしています。

駅及び北口の経路・施設は基本的にバリアフリー化されていますが、南口側では大網街道で狭い歩道が断続的に設置されている状況であり、バリアフリー化されていません。また、駅から大網街道を挟んで南口駅前広場については、バスと自動車が錯綜している現状があり、予定されている整備事業において道路横断時の安全性の確保が求められます。

■バリアフリー方針

- 駅から主な生活関連施設間の歩行環境の向上を図ります。
- 関連するまちづくり事業等に合わせた連続的・一体的なバリアフリー化を図ります。



種別	番号	施設名称
旅客施設	1	JR 誉田駅
公共施設	❶	誉田市民センター
	❷	誉田駅前郵便局
保健施設・病院	1	千葉南病院

JR 誉田駅

大網街道（JR 誉田駅南口）

11 JR 土気地区

■地区の概要

位置づけ（立地適正化計画）	地域拠点	
面積（促進地区）	115ha	
旅客施設（2000 人/日以上）乗降客数	JR 土気駅	26,156 人（2019 年度）
バス便数	土気駅南口	157（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
	土気駅北口	42（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
生活関連施設数	14 施設	
生活関連経路延長	約 3,470m	
500m 圏人口	4,244 人	※JR 土気駅を中心に 500m 圏の範囲で算出（2015 年国勢調査 4 次(500m)メッシュ）
500m 圏高齢者数	1,043 人	
500m 圏高齢化率	25%	
従前の基本構想からの主な変更点	桜ホットステーション親子を含むよう地区拡大	

※JR の乗降客数は乗車人員公表値を 2 倍した値　バス便数は千葉市立地適正化計画データより

■地区の特徴と課題

JR 土気地区は、駅周辺の人口が促進地区のうちでも少なく、高齢化率は平均的な地区です。駅から 500m 程度の範囲内に公共施設、集会施設、福祉施設が集積し、1km 程度離れたあすみが丘に病院、複合施設、大規模店舗が立地しています。

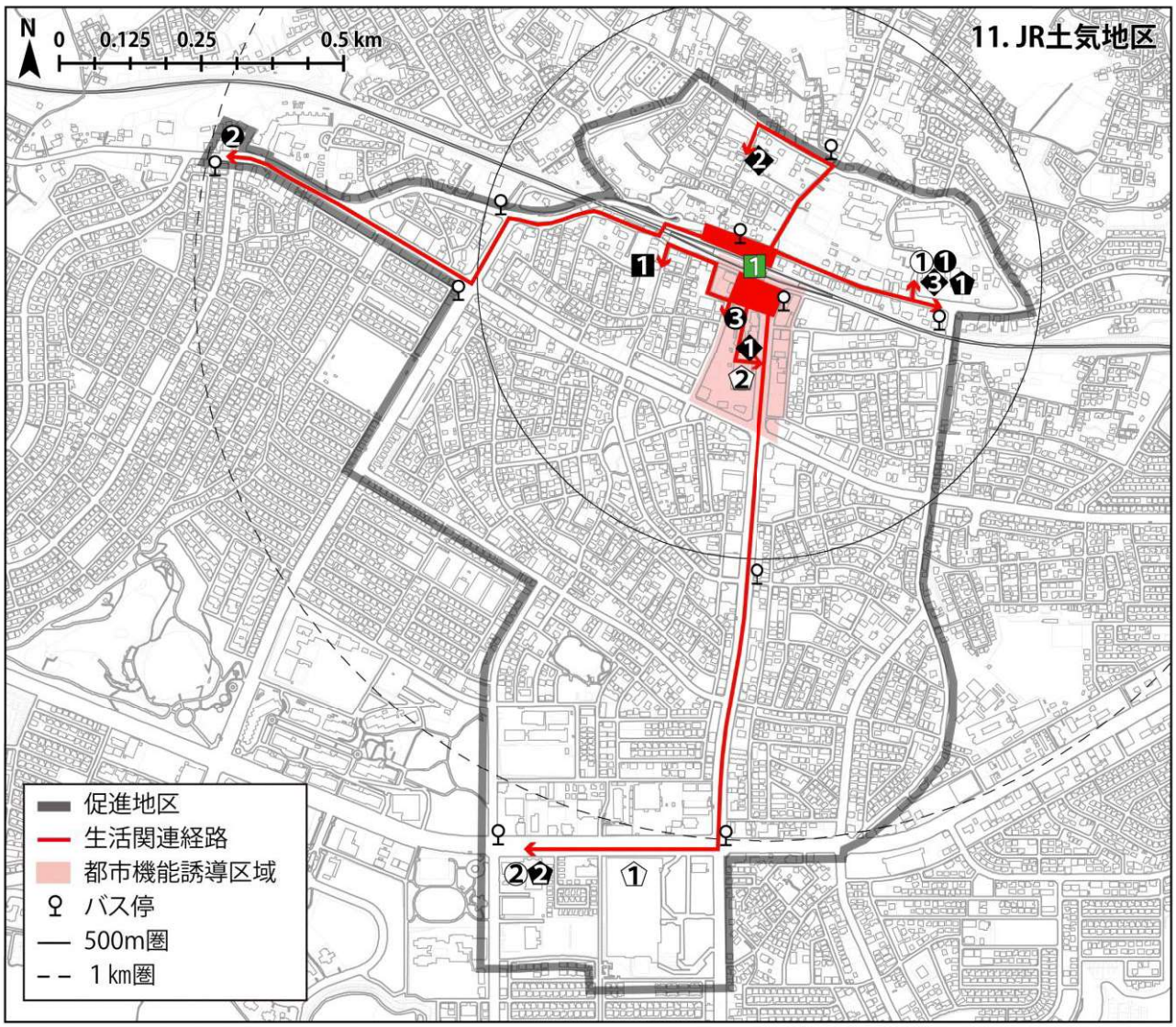
駅周辺の主な土地利用は住宅であり、駅南側に設定された都市機能誘導区域の一部はあすみが丘バーズモールとして歩行者専用空間となっています。

JR 土気駅の乗降客数及びバス便数は平均的で、南口からあすみが丘方面、北口から大椎台団地・誉田駅方面へアクセスしています。

駅及び駅前広場、南口側の道路、施設は基本的にバリアフリー化されていますが、あすみが丘ブランニューモール付近は長い坂道であり、車椅子による移動では負担が大きい経路です。駅北口側は大網街道で狭い歩道が断続的に続き、段差や勾配がありバリアフリー化が困難な状況です。

■バリアフリー方針

- 駅から主な生活関連施設間の歩行環境の向上を図ります。
- 駅前広場の利便性を向上します。
- バス停留所の利用環境の向上、及びバス停留所と生活関連施設間の安全・安心な誘導を図ります。



種別	番号	施設名称
旅客施設	1	JR 土気駅
公共施設	❶	土気市民センター　※1
	❷	土気郵便局
	❸	土気駅前郵便局
集会施設	❶	土気公民館
	❷	土気あすみが丘プラザ　※2
福祉施設	❶	千葉市あんしんケアセンター土気
	❷	桜ほっとステーション親子
	❸	土気いきいきセンター　※1
保健施設・病院	1	鏡戸病院
文化・教養・教育施設	①	緑図書館土気図書室　※1
	②	緑図書館あすみが丘分館　※2
大規模店舗	①	あすみが丘ブランニューモール
	②	あすみが丘バーズモール

※は同一建築物内

JR 土気駅南口駅前広場

大網街道（JR 土気駅北口）

12 JR/モノレール都賀地区

■地区の概要

位置づけ（立地適正化計画）	重要地域拠点	
面積（促進地区）	42.2ha	
旅客施設（2000 人/日以上）乗降客数	JR 都賀駅	42,168 人（2019 年度）
	モノレール都賀駅	12,194 人（2019 年度）
バス便数	都賀駅東口	176（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
	都賀駅西口	47（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
生活関連施設数	15 施設	
生活関連経路延長	約 1,530m	
500m 圏人口	8,246 人	※JR 都賀駅を中心に 500m 圏の範囲で算出（2015 年国勢調査 4 次(500m)メッシュ）
500m 圏高齢者数	1,753 人	
500m 圏高齢化率	21%	
従前の基本構想からの主な変更点	・都市機能誘導区域を含むよう地区拡大 ・若葉図書館西都賀分館を含むよう地区拡大	

※JR の乗降客数は乗車人員公表値を 2 倍した値　バス便数は千葉市立地適正化計画データより

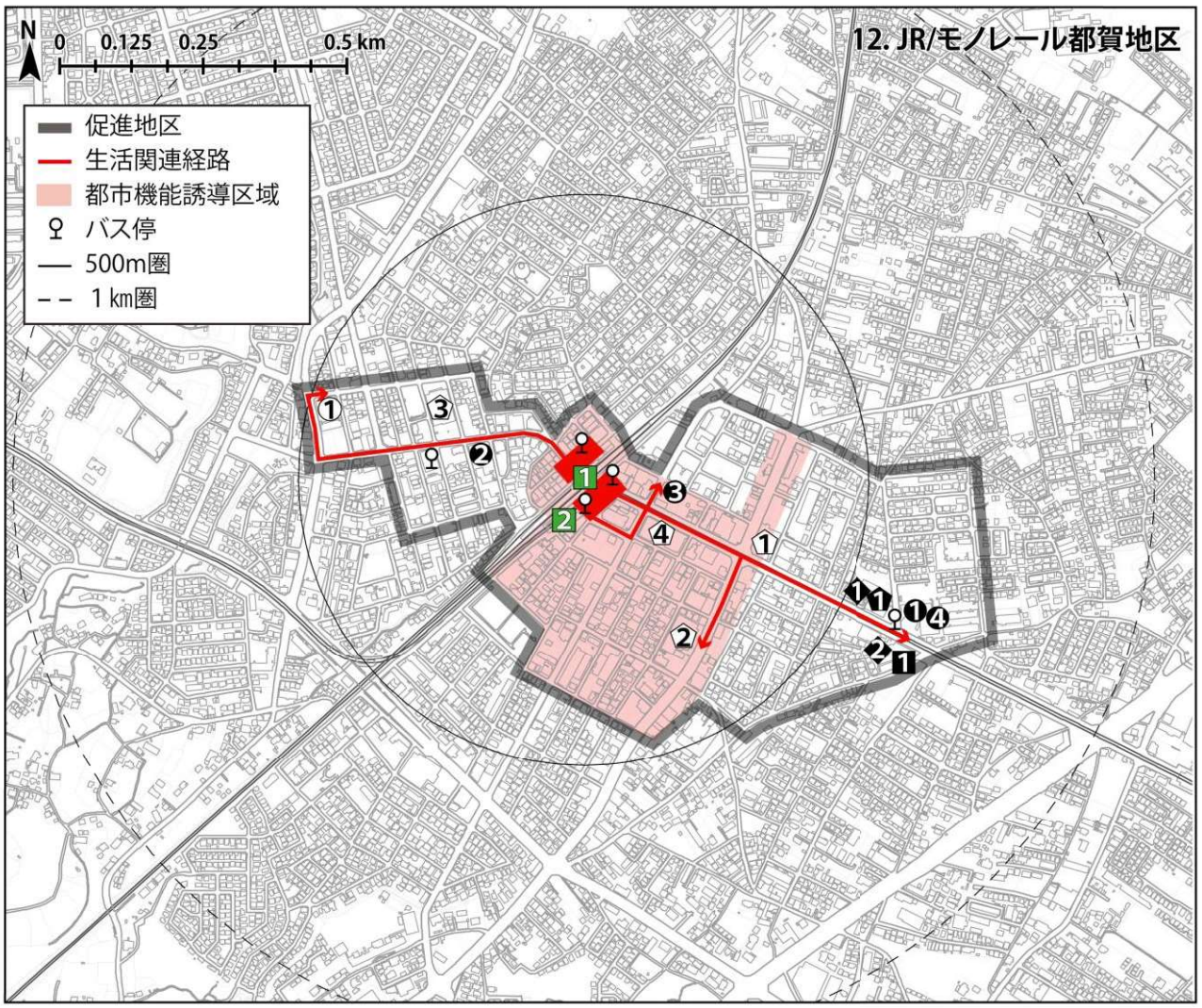
■地区の特徴と課題

JR/モノレール都賀地区は、駅周辺の人口が促進地区のうちでも比較的多く、高齢化率の比較的低い地区です。駅から 500m 程度の所に、若葉区役所や若葉保健福祉センター等の公共施設が集積しています。駅周辺の主な土地利用は住宅であり、駅の南東側に都市機能誘導区域が設定されています。乗換駅であり、JR 都賀駅の乗降客数は市内でも比較的多いです。バス便数は平均的な本数となっています。

駅や道路、主な公共施設は基本的にバリアフリー化され、連続して視覚障害者誘導用ブロックが敷設されていますが一部劣化している箇所や、電柱と視覚障害者誘導用ブロックの距離が近すぎる箇所、側溝の蓋の隙間が大きい箇所が見受けられます。駅周辺では路上駐輪が多く、移動の妨げとなっています。また、JR 都賀駅とモノレール都賀駅へ向かうルートの分岐点においてわかりやすい案内誘導が求められています。

■バリアフリー方針

- 駅から主な生活関連施設間の歩行環境の向上を図ります。
- 駅前広場の利便性を向上します。



種別	番号	施設名称
旅客施設	1	JR 都賀駅
	2	モノレール都賀駅
公共施設	❶	若葉区役所　※1
	❷	千葉西都賀郵便局
	❸	都賀駅前郵便局
	❹	東部市税事務所　※1
集会施設	❶	都賀コミュニティセンター　※2
福祉施設	❶	都賀いきいきセンター　※2
	❷	千葉市あんしんケアセンター桜木
保健施設・病院	1	若葉保健福祉センター
文化・教養・教育施設	①	若葉図書館西都賀分館
大規模店舗	①	ROOM DECO　都賀本店
	②	マルエツ新都賀店
	③	西友都賀店
	④	コナミスポーツクラブ都賀

※は同一建築物内

JR 都賀駅東口駅前広場

JR 都賀駅西口駅前広場

13 JR 検見川浜地区

■地区の概要

位置づけ（立地適正化計画）	地域拠点	
面積（促進地区）	194.0ha	
旅客施設（2000 人/日以上）乗降客数	JR 検見川浜駅	31,270 人（2019 年度）
バス便数	検見川浜駅	208（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
生活関連施設数	15 施設	
生活関連経路延長	約 5,470m	
500m 圏人口	15,090 人	※JR 検見川浜駅を中心に 500m 圏の範囲で算出（2015 年国勢調査 4 次(500m)メッシュ）
500m 圏高齢者数	4,383 人	
500m 圏高齢化率	29%	
従前の基本構想からの主な変更点	・都市機能誘導区域、真砂いきいきセンターを含むよう地区拡大 ・JR 稲毛海岸地区と重複しないように地区境界を精査	

※JR の乗降客数は乗車人員公表値を 2 倍した値　バス便数は千葉市立地適正化計画データより

■地区の特徴と課題

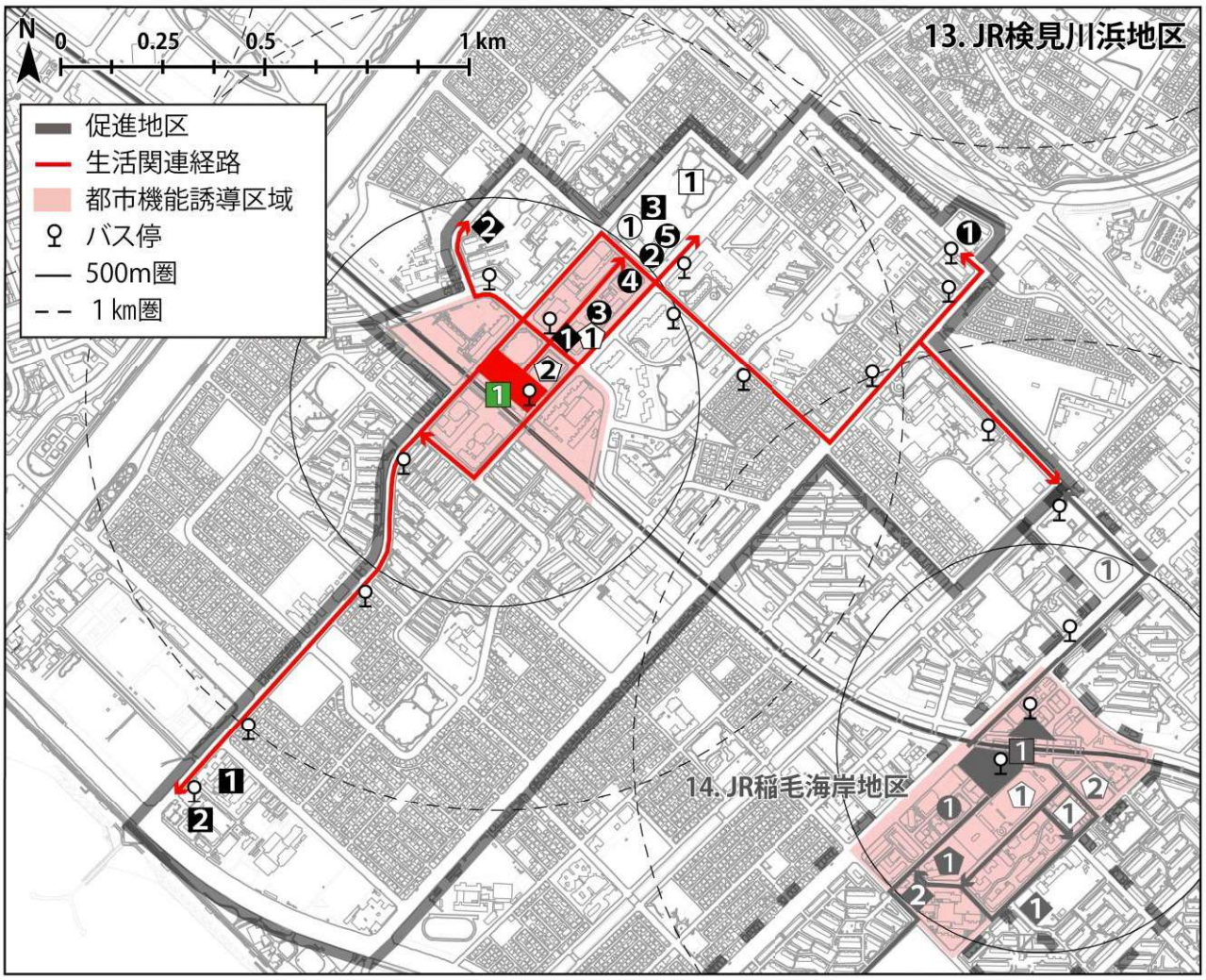
JR 検見川浜地区は駅周辺の人口が促進地区の中で最も多く、高齢化率も比較的高い地区です。駅前から北口方面は歩行者専用道となっており、沿道に主に地域住民の利用が想定される公共施設や大規模店舗が立地しています。駅を囲うように集合住宅が多く立地しており、北東側に都市機能誘導区域が設定されています。

駅や道路、主な公共施設は基本的にバリアフリー化され、連続して視覚障害者誘導用ブロックが敷設されています。広域から利用が想定される 2 つの病院（千葉県救急医療センター、海浜病院）は駅から 1km 以上離れており、バス利用が多いことが想定されます。海浜病院内へのバス便は少ないことから、近隣の磯辺 8 丁目バス停の利便性向上やわかりやすい案内誘導が求められます。

JR 稲毛海岸駅との駅徒歩圏が重なっており、連続的な移動への配慮が求められます。

■バリアフリー方針

- 駅から主な生活関連施設間の歩行環境の向上を図ります。
- 駅前広場の利便性を向上します。
- バス停留所の利用環境の向上、及びバス停留所と生活関連施設間の安全・安心な誘導を図ります。



種別	番号	施設名称
旅客施設	1	JR 検見川浜駅
公共施設	❶	千葉西警察署
	❷	美浜区役所　※1
	❸	千葉西県税事務所
	❹	美浜郵便局
	❺	西部市税事務所　※1
福祉施設	◆1	千葉市あんしんケアセンター真砂　※2
	◆2	真砂いきいきセンター
保健施設・病院	1	千葉県救急医療センター
	2	海浜病院
	3	美浜保健福祉センター　※3
文化・教養・教育施設	①	美浜文化ホール　※3
大規模店舗	①◆	ショッピングセンターPIA　※2
	②◆	イオンスタイル検見川浜
都市公園	1	真砂中央公園

※は同一建築物内

14 JR 稲毛海岸地区

■地区の概要

位置づけ（立地適正化計画）	地域拠点	
面積（促進地区）	50.3ha	
旅客施設（2000 人/日以上）乗降客数	JR 稲毛海岸駅	43,432 人（2019 年度）
バス便数	稲毛海岸駅	334（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
生活関連施設数	10 施設	
生活関連経路延長	約 2,970m	
500m 圏人口	13,208 人	※JR 稲毛海岸駅を中心に 500m 圏の範囲で算出（2015 年国勢調査 4 次(500m)メッシュ）
500m 圏高齢者数	3,051 人	
500m 圏高齢化率	23%	
従前の基本構想からの主な変更点	・JR 検見川浜地区と重複しないように地区境界を精査 ・千葉市あんしんケアセンター高洲を含むよう地区拡大	

※JR の乗降客数は乗車人員公表値を 2 倍した値　バス便数は千葉市立地適正化計画データより

■地区の特徴と課題

JR 稲毛海岸地区は駅周辺の人口が促進地区のうちで JR 検見川浜地区に次いで多く、高齢化率は平均的な地区です。駅から 500m 程度の範囲内に、大規模店舗や福祉施設が立地しています。

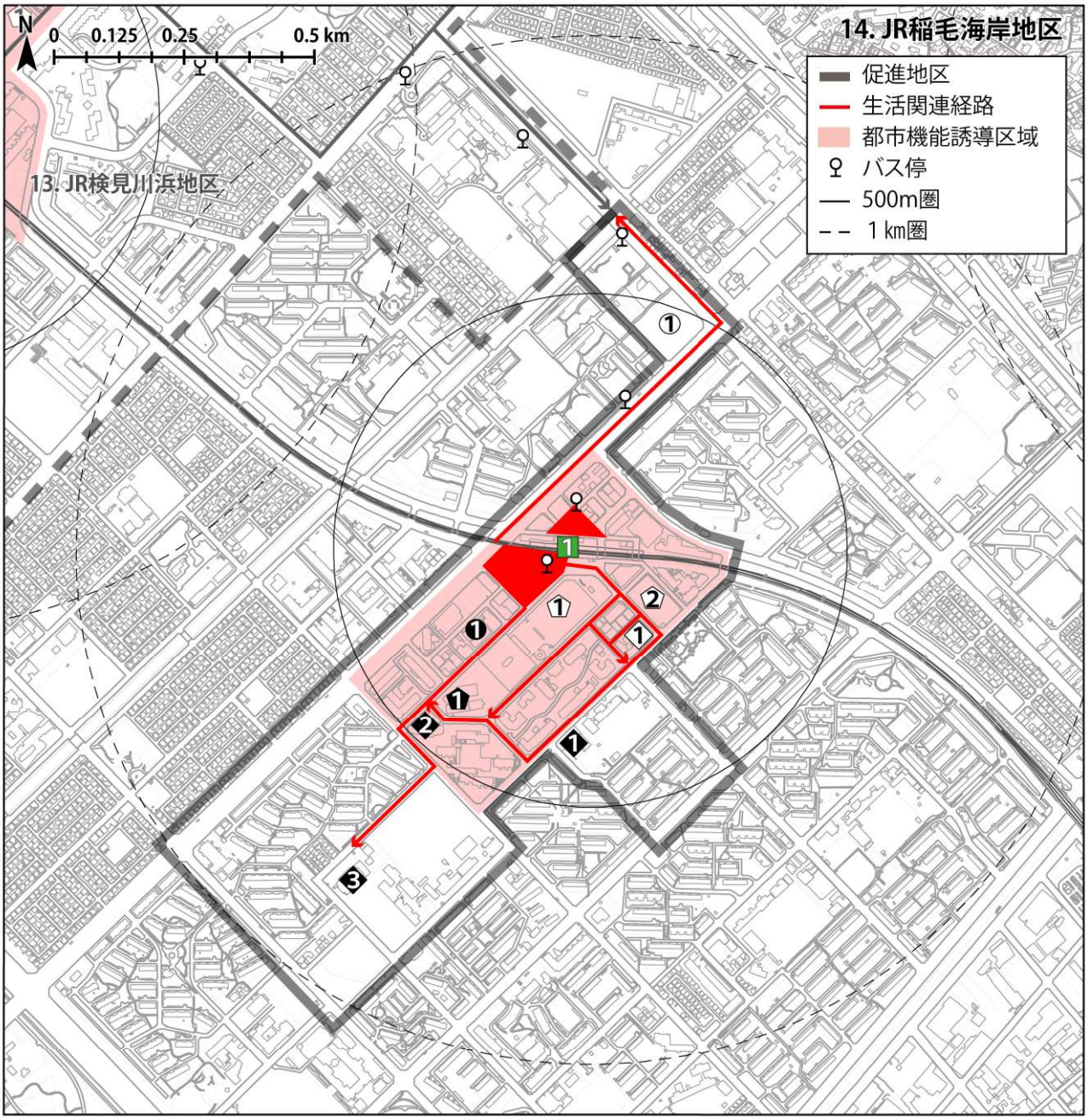
駅周辺の主な土地利用は商業及び住居であり、駅を囲うように集合住宅が多く立地しています。駅南側に都市機能誘導区域が設定されています。また、JR 稲毛海岸駅の乗降客数、バス便数は比較的多くなっています。

駅や道路、主な公共施設は基本的にバリアフリー化されていますが、整備から時間が経過している区間では、一部、歩道上の勾配や視覚障害者誘導用ブロックの劣化、色が不揃いの箇所が見受けられます。また、駐輪状況の改善を求める声もあり、ソフト的な対策も求められています。

JR 検見川浜駅との駅徒歩圏が重なっており、連続的な移動への配慮が求められます。

■バリアフリー方針

- 駅から主な生活関連施設間の歩行環境の向上を図ります。
- 駅前広場の利便性を向上します。



種別	番号	施設名称
旅客施設	1	JR 稲毛海岸駅
公共施設	❶	稲毛海岸駅前郵便局
集会施設	❶	高洲コミュニティセンター
福祉施設	❶	千葉市あんしんケアセンター高洲
	❷	美浜いきいきプラザ
	❸	療育センター
文化・教養・教育施設	①	高洲スポーツセンター
大規模店舗	①	マリンピア
	②	イオンマリンピア専門館
宿泊施設	①	テトランゼ幕張稲毛海岸ホテル

JR 稲毛海岸駅

JR 稲毛海岸駅南口

15 モノレールスポーツセンター地区

■地区の概要

位置づけ（立地適正化計画）	連携地域拠点	
面積（促進地区）	99.9ha	
旅客施設（2000 人/日以上）乗降客数	モノレールスポーツセンター駅	4,739 人（2019 年度）
バス便数	スポーツセンター駅	280（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
生活関連施設数	5 施設	
生活関連経路延長	約 1,180m	
500m 圏人口	4,582 人	※モノレールスポーツセンター駅を中心に 500m 圏の範囲で算出（2015 年国勢調査 4 次(500m)メッシュ）
500m 圏高齢者数	1,304 人	
500m 圏高齢化率	28%	
従前の基本構想からの主な変更点	あやめ台団地都市機能誘導区域、あやめ台いきいきセンターを含むよう地区拡大	

※バス便数は千葉市立地適正化計画データより

■地区の特徴と課題

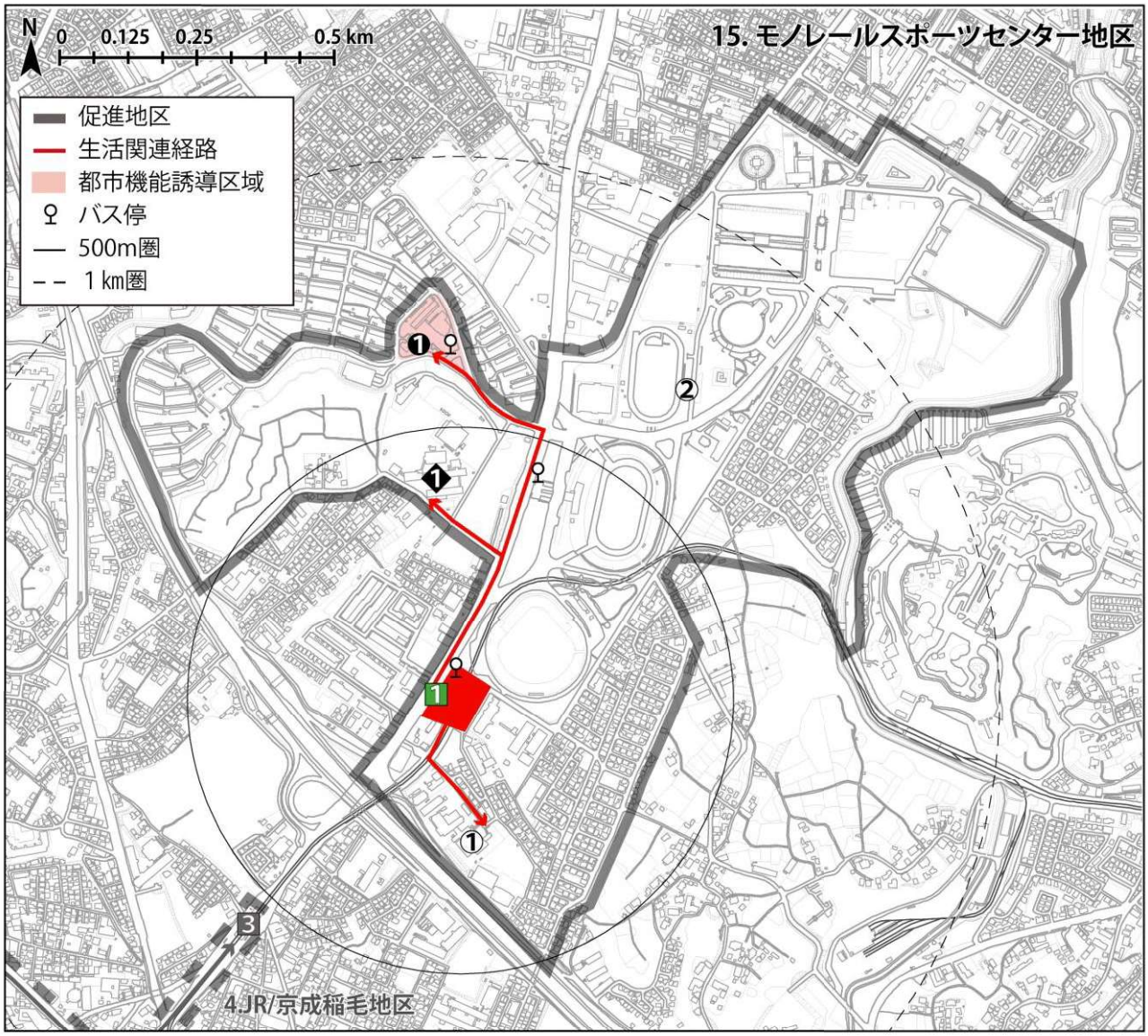
モノレールスポーツセンター地区は駅周辺の人口が促進地区のうちでも比較的少なく、高齢化率の比較的高い地区です。駅周辺の主な土地利用は住宅及び都市公園・緑地であり、北側に位置するあやめ台団地に都市機能誘導区域が設定されています。

モノレールスポーツセンター駅は交通結節点となっており、駅からのバス便数は平均的で、特にあやめ台団地方面へのアクセスが充実していますが、駅前広場における案内等は簡素なものとなっています。

千葉県総合スポーツセンターは老朽化した施設が多く、順次大規模改修を進めています。スポーツセンターへ至る経路は、歩道の凹凸が大きく危険な箇所が指摘されています。また、バスによる利用も想定されるため、バス停付近におけるわかりやすい案内誘導が求められます。あやめ台団地に至る経路は歩道が狭く、視覚障害者誘導用ブロックも設置されていません。

■バリアフリー方針

- 駅から主な生活関連施設間の歩行環境の向上を図ります。
- 駅前広場の利便性を向上します。



種別	番号	施設名称
旅客施設	1	モノレールスポーツセンター駅
公共施設	❶	千葉あやめ台郵便局
福祉施設	◆❶	あやめ台いきいきセンター
文化・教養	①	千葉県障害者スポーツ・レクリエーションセンター
・教育施設	②	千葉県総合スポーツセンター

モノレールスポーツセンター駅

駅からスポーツセンターへの経路上の一部

16 モノレール千城台地区

■地区の概要

位置づけ（立地適正化計画）	地域拠点	
面積（促進地区）	57.8ha	
旅客施設（2000 人/日以上）乗降客数	モノレール千城台駅	8,175 人（2019 年度）
	モノレール千城台北駅	2,093 人（2019 年度）
バス便数	千城台駅	245（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
	千城台北駅	92（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
	千城台北駅入口	81（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
生活関連施設数	11 施設	
生活関連経路延長	約 2,090m	
500m 圏人口	4,932 人	※モノレール千城台駅を中心に 500m 圏の範囲で算出 （2015 年国勢調査 4 次(500m)メッシュ）
500m 圏高齢者数	1,877 人	
500m 圏高齢化率	38%	
従前の基本構想からの主な変更点	・千城台北駅を含むよう地区拡大	

※バス便数は千葉市立地適正化計画データより

■地区の特徴と課題

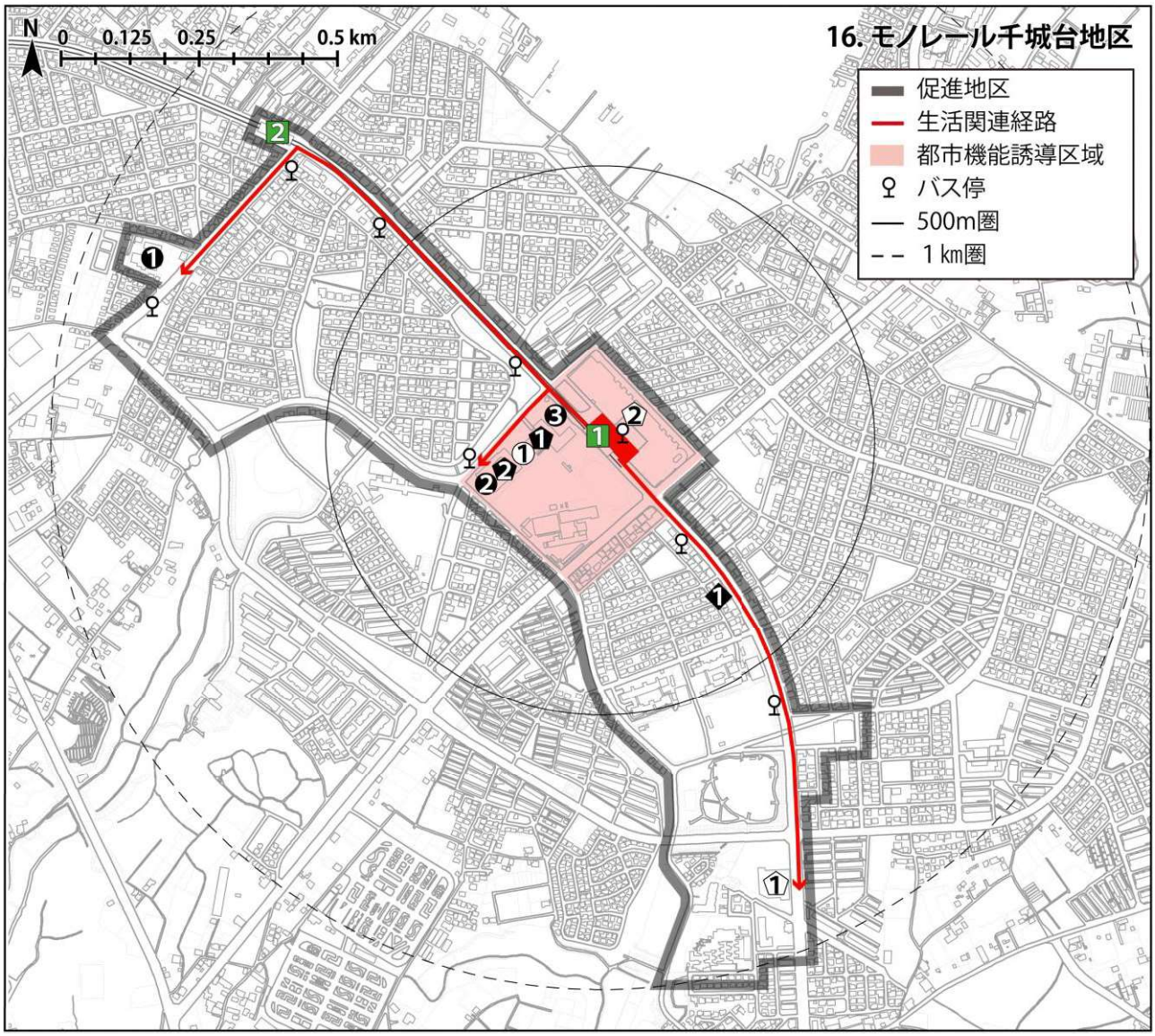
モノレール千城台地区は駅周辺の人口が促進地区のうちでも比較的少なく、高齢化率の高い地区です。駅から 300m 程度の範囲内に、集会施設等が集中して立地しています。

駅周辺の主な土地利用は商業及び住宅であり、南西側に都市機能誘導区域が設定されています。バス便数は平均的で、特に千葉駅方面へのアクセスが充実しています。

駅や道路、主な公共施設は基本的にバリアフリー化されていますが、整備時期が古い区間では、舗装のがたつきや視覚障害者誘導用ブロックの規格が不揃いの箇所が見受けられます。また、駅前広場においては歩道の狭い箇所や案内が十分でない箇所があり、バス停については、停車位置により看板や柱と重なり乗車しにくい等の声があり、改善が求められています。

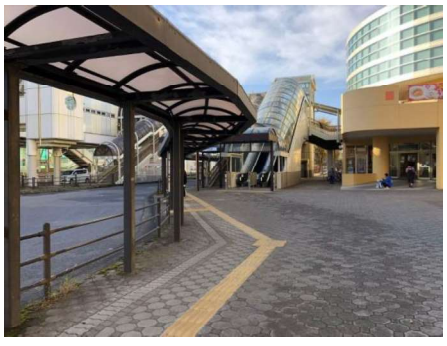
■バリアフリー方針

- 駅から主な生活関連施設間の歩行環境の向上を図ります。
- 駅前広場の利便性を向上します。

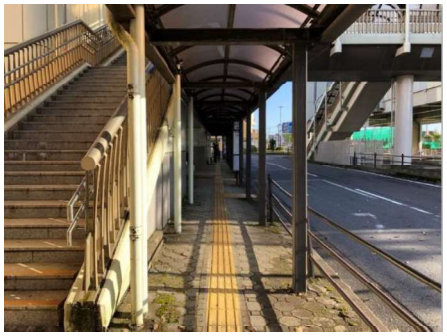


種別	番号	施設名称
旅客施設	1	モノレール千城台駅
	2	モノレール千城台北駅
公共施設	❶	千葉東警察署
	❷	千城台市民センター　※1
	❸	千城台郵便局
集会施設	❶	千城台公民館
	❷	千城台コミュニティセンター　※1
福祉施設	❶	千葉市あんしんケアセンター千城台
文化・教養・教育施設	①	若葉図書館
大規模店舗	①	フードスクエア千城台店
	②	イコアス千城台

※は同一建築物内



モノレール千城台駅



モノレール千城台駅前バス停

17 JR 海浜幕張地区

■地区の概要

位置づけ（立地適正化計画）	都心	
面積（促進地区）	381.0ha	
旅客施設（2000 人/日以上）乗降客数	JR 海浜幕張駅	136,222 人（2019 年度）
バス便数	海浜幕張駅	712（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
	海浜幕張駅南口	126（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
生活関連施設数	30 施設	
生活関連経路延長	約 9,270m	
500m 圏人口	1,565 人	※JR 海浜幕張駅を中心に 500m 圏の範囲で算出 （2015 年国勢調査 4 次(500m)メッシュ）
500m 圏高齢者数	128 人	
500m 圏高齢化率	8%	
従前の基本構想からの主な変更点	・JR/京成幕張地区と重複しないように地区境界を精査 ・千葉県運転免許センターを含むよう地区拡大 ・イオンモール幕張新都心及び新駅を含むよう地区拡大	

※JR の乗降客数は乗車人員公表値を 2 倍した値　バス便数は千葉市立地適正化計画データより

■地区の特徴と課題

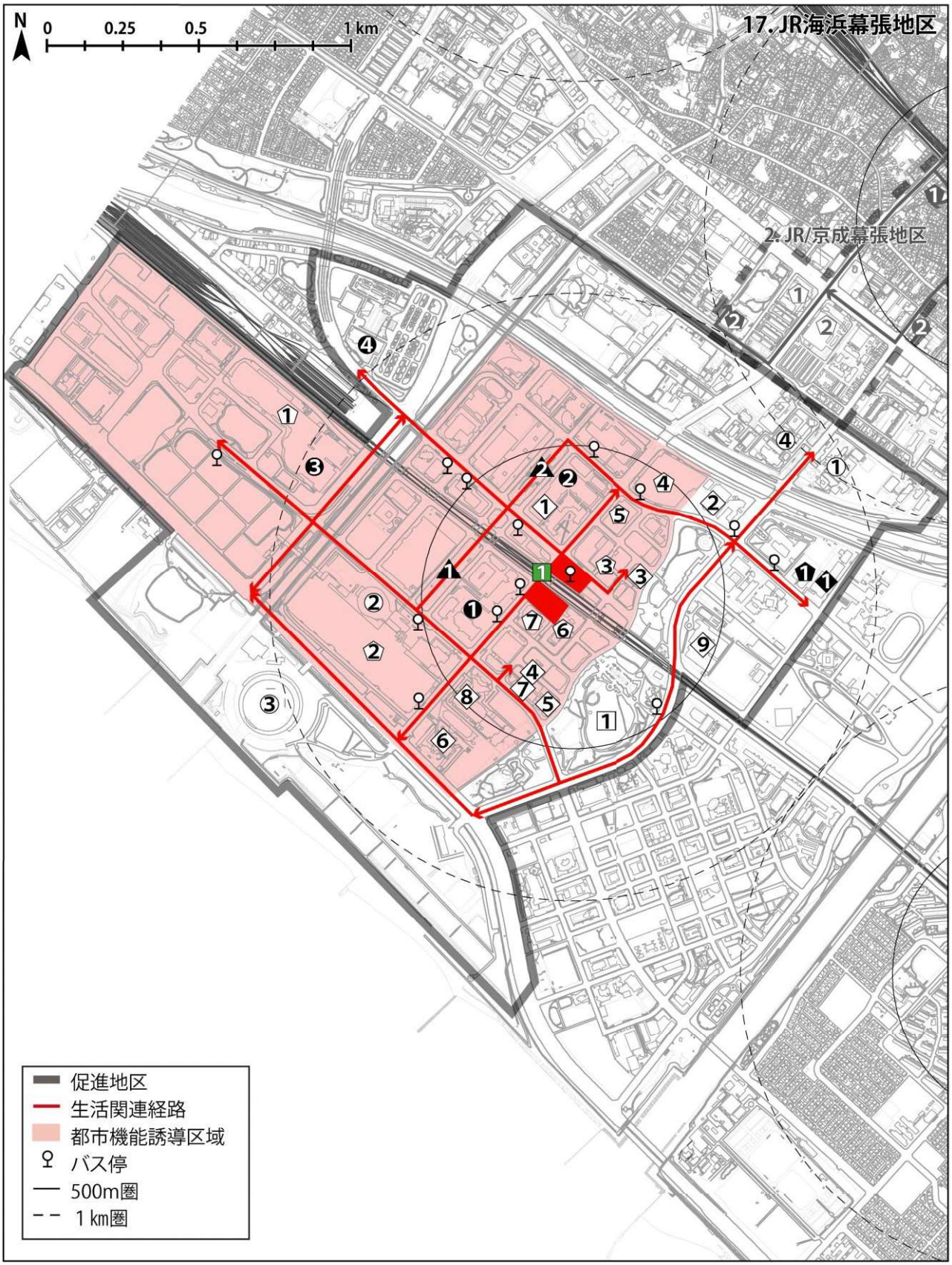
JR 海浜幕張地区は駅周辺の人口が促進地区のうちで最も少なく、高齢化率も最も低い地区です。駅から 500m 程度の範囲内に、大規模店舗や宿泊施設が立地しています。

駅周辺の主な土地利用は商業であり、南側に広く都市機能誘導区域が設定されています。JR 海浜幕張駅の乗降客数は千葉都心に次いで多く、バスは幕張新都心の地域内や幕張本郷駅方面で充実しています。また、地区の西側では新駅の設置が進められており、併せてその周辺地区の住宅開発が予定されています。

駅周辺は歩行者デッキで結ばれ、比較的バリアフリー化が進行しています。また、幕張メッセが東京 2020 大会の会場となることを受け、駅から会場周辺までの再整備が実施されています。一方、北口駅前広場は多くのバス便数に対して、島型の停留所となっており車道を横断する必要があるため、停留所への安全なアクセスや情報提供が十分でない部分が指摘されています。

■バリアフリー方針

- 駅から主な生活関連施設間の歩行環境の向上を図ります。
- 関連するまちづくり事業等に合わせた連続的・一体的なバリアフリー化を図ります。
- バス停留所の利用環境の向上、及びバス停留所と生活関連施設間の安全・安心な誘導を図ります。


N
0
0.25
0.5
1 km
17. JR海浜幕張地区
2. JR/京成幕張地区
促進地区
生活関連経路
都市機能誘導区域
バス停
500m圏
1 km圏

種別	番号	施設名称
旅客施設	1	JR 海浜幕張駅
公共施設	❶	ワールドビジネスガーデン内郵便局
	❷	幕張テクノガーデン内郵便局　※1
	❸	イオンモール幕張新都心内郵便局　※2
	❹	千葉運転免許センター
集会施設	❶	幕張勤労市民プラザ
福祉施設	❶	障害者職業総合センター
文化・教養・教育施設	①	県立保健医療大学
	②	幕張メッセ
	③	ZOZO マリンスタジアム
	④	放送大学
大規模店舗	①	イオンモール幕張新都心　※2
	②	幕張メッセ国際展示場
	③	スーク海浜幕張
	④	イオン幕張店
	⑤	ROOM DECO　かねたや幕張新都心店
	⑥	三井アウトレットパーク幕張
	⑦	プレナ幕張
宿泊施設	①	セミナーハウス　クロス・ウェーブ幕張　※1
	②	幕張国際研修センター
	③	ホテルスプリングス幕張
	④	ホテルグリーンタワー幕張
	⑤	ホテル　ザ・マンハッタン
	⑥	アパホテル＆リゾート〈東京ベイ幕張〉
	⑦	ホテル　フランクス
	⑧	ホテルニューオータニ幕張
	⑨	JA共済幕張研修センター
都市公園	1	幕張海浜公園
駐車場	P1	千葉県幕張新都心第一地下駐車場
	P2	千葉県幕張新都心第二地下駐車場

※は同一建築物内

JR 海浜幕張駅駅前広場

国際大通りの歩道

イオンモール幕張新都心

18 市立青葉病院周辺地区

■地区の概要

位置づけ（立地適正化計画）	なし	
面積（促進地区）	242.0ha	
旅客施設（2000 人/日以上）乗降客数	京成千葉寺駅	4,907 人（2019 年度）
バス便数	市立青葉病院	154（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
	千葉寺駅	35（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
	千葉寺駅入口	30（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
生活関連施設数	10 施設	
生活関連経路延長	約 2,340m	
500m 圏人口	4,448 人	※市立青葉病院を中心に 500m 圏の範囲で算出（2015 年国勢調査 4 次(500m)メッシュ）
500m 圏高齢者数	1,069 人	
500m 圏高齢化率	24%	
従前の基本構想からの主な変更点	変更なし	

※バス便数は千葉市立地適正化計画データより

■地区の特徴と課題

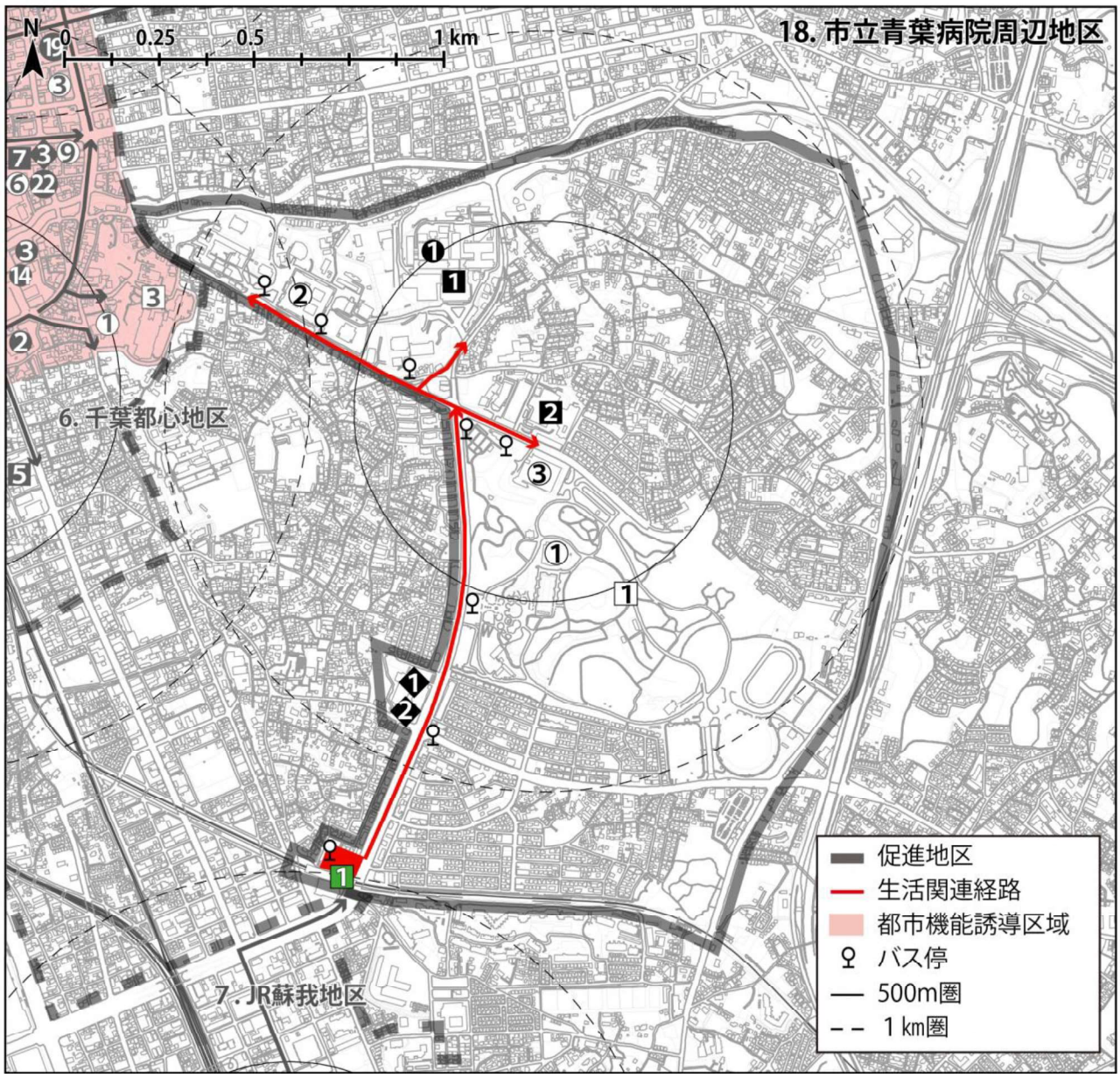
市立青葉病院周辺地区は、複数の病院や障害者施設が集積しており、促進地区の中で唯一都市機能誘導区域を含まない地域です。青葉病院周辺の人口は促進地区のうちでも比較的少なく、高齢化率は平均的です。青葉病院周辺の主な土地利用は住宅・公共公益用地・都市公園等です。バス便数は促進地区の中では比較的少ないですが、千葉駅方面へのアクセスが充実しています。

青葉病院から最寄りの京成千葉寺駅までは 1.5 ㎞程度あり、主にバスによるアクセスが見込まれることから、バス利用環境の向上が求められます。

京成千葉寺駅には多機能トイレがなく、一般トイレ出入口には階段があることから、改善が求められています。駅や道路、主な公共施設は基本的にバリアフリー化され、連続して視覚障害者誘導用ブロックが敷設されていますが、整備時期が古い区間では、一部舗装のがたつきや視覚障害者誘導用ブロックの色や規格が不揃いの箇所が見受けられます。

■バリアフリー方針

- 駅から主な生活関連施設間の歩行環境の向上を図ります。
- 駅前広場の利便性を向上します。
- バス停留所の利用環境の向上、及びバス停留所と生活関連施設間の安全・安心な誘導を図ります。



種別	番号	施設名称
旅客施設	1	京成千葉寺駅
公共施設	❶	千葉大学病院内簡易郵便局　※1
福祉施設	◆1	障害者福祉センター　※2
	◆2	千葉市ハーモニープラザ　※2
保健施設・病院	1	国立大学法人　千葉大学医学部付属病院　※1
	2	青葉病院
文化・教養・教育施設	①	芸術文化ホール
	②	国立大学法人　千葉大学亥鼻キャンパス
	③	中央博物館
都市公園	1	青葉の森公園

※は同一建築物内

京成千葉寺駅

青葉病院

19 大宮台団地地区

■地区の概要

位置づけ （立地適正化計画）	連携地域拠点	
面積（促進地区）	2.1ha	
バス便数	大宮団地	140（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
生活関連施設数	3 施設	
生活関連経路延長	約 130m	
500m 圏人口	2,847 人	※千葉中央バス大宮団地バスターミナルを中心に 500m 圏の範囲で算出 （2015 年国勢調査 4 次(500m)メッシュ）
500m 圏高齢者数	1,232 人	
500m 圏高齢化率	43%	
従前の基本構想からの主な変更点	都市機能誘導区域が指定されている団地で、大宮台連絡所、千葉大宮郵便局、千葉市あんしんケアセンター大宮台を含むよう地区設定	

※バス便数は千葉市立地適正化計画データより

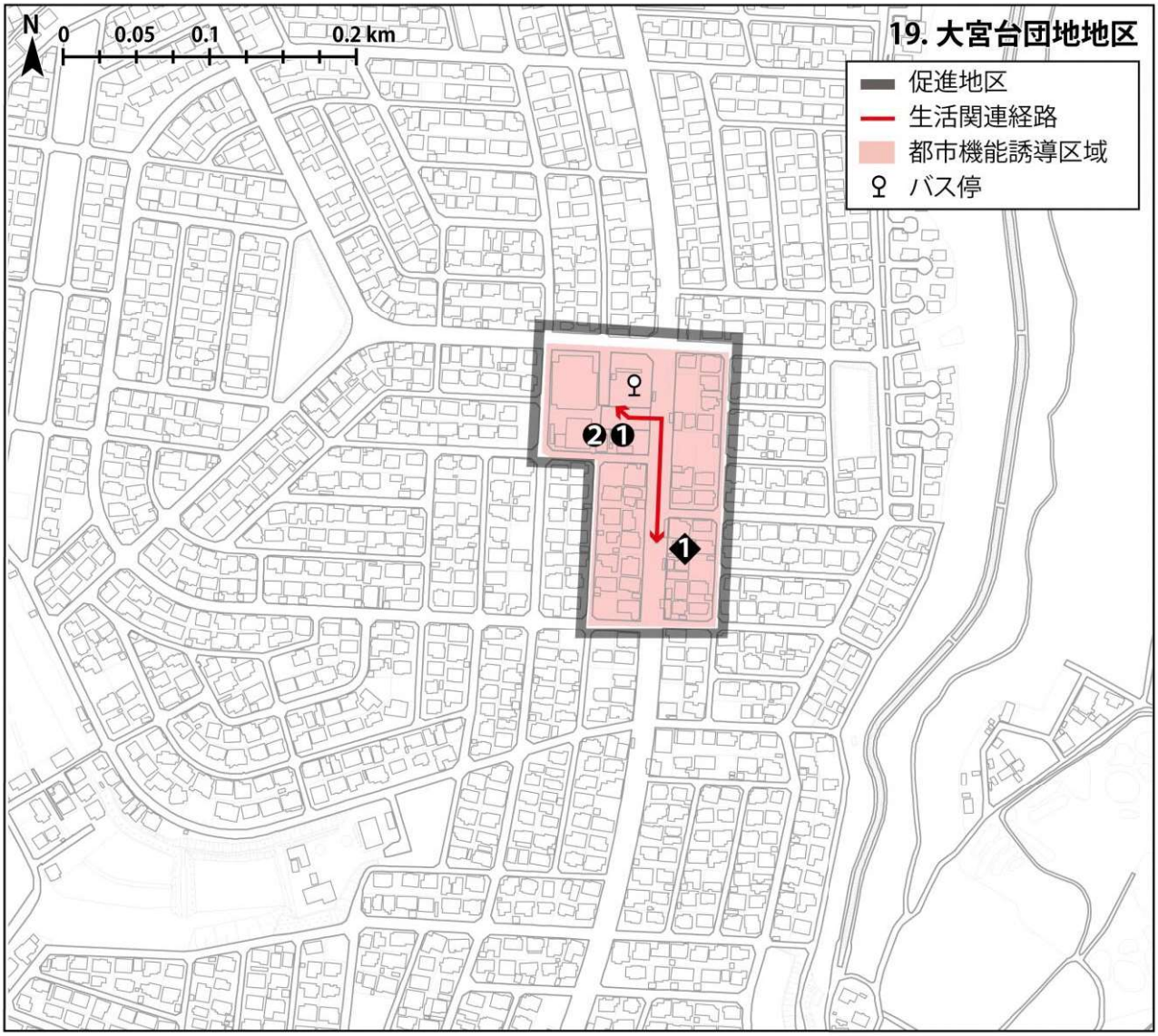
■地区の特徴と課題

大宮台団地地区は 500m 圏人口が促進地区のうちでも少なく、高齢化率がこてはし台団地地区に次いで高い地区です。アクセスの拠点となる大宮団地バスターミナルの南側に公共施設、福祉施設が立地し、コンパクトに都市機能誘導区域が設定されています。バスは千葉駅方面へのアクセスが比較的充実しています。

バス停から生活関連施設間において、案内誘導や出入口の移動の連続性が十分ではない状況が見受けられ、経路・施設間の一体的なバリアフリー化が求められます。また、大宮団地バスターミナルを中心にバス利用者が多く見込まれることから、バスの利用環境の向上が求められます。

■バリアフリー方針

- バス停留所の利用環境の向上、及びバス停留所と生活関連施設間の安全・安心な誘導を図ります。



種別	番号	施設名称
公共施設	❶	大宮台連絡所
	❷	千葉大宮郵便局
福祉施設	◆❶	千葉市あんしんケアセンター大宮台

大宮団地バスターミナル

大宮台連絡所・千葉大宮郵便局

20 こてはし台団地地区

■地区の概要

位置づけ （立地適正化計画）	連携地域拠点	
面積（促進地区）	1.7ha	
バス便数	こてはし第三	98（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
生活関連施設数	3 施設	
生活関連経路延長	約 140m	
500m 圏人口	2,776 人	※こてはし第三バス停を中心に 500m 圏の範囲で算出 （2015 年国勢調査 4 次(500m)メッシュ）
500m 圏高齢者数	1,216 人	
500m 圏高齢化率	44%	
従前の基本構想からの主な変更点	都市機能誘導区域が指定されている団地で、千葉こてはし台郵便局、千葉市あんしんケアセンターこてはし台、花見川図書館を含むよう地区設定	

※バス便数は千葉市立地適正化計画データより

■地区の特徴と課題

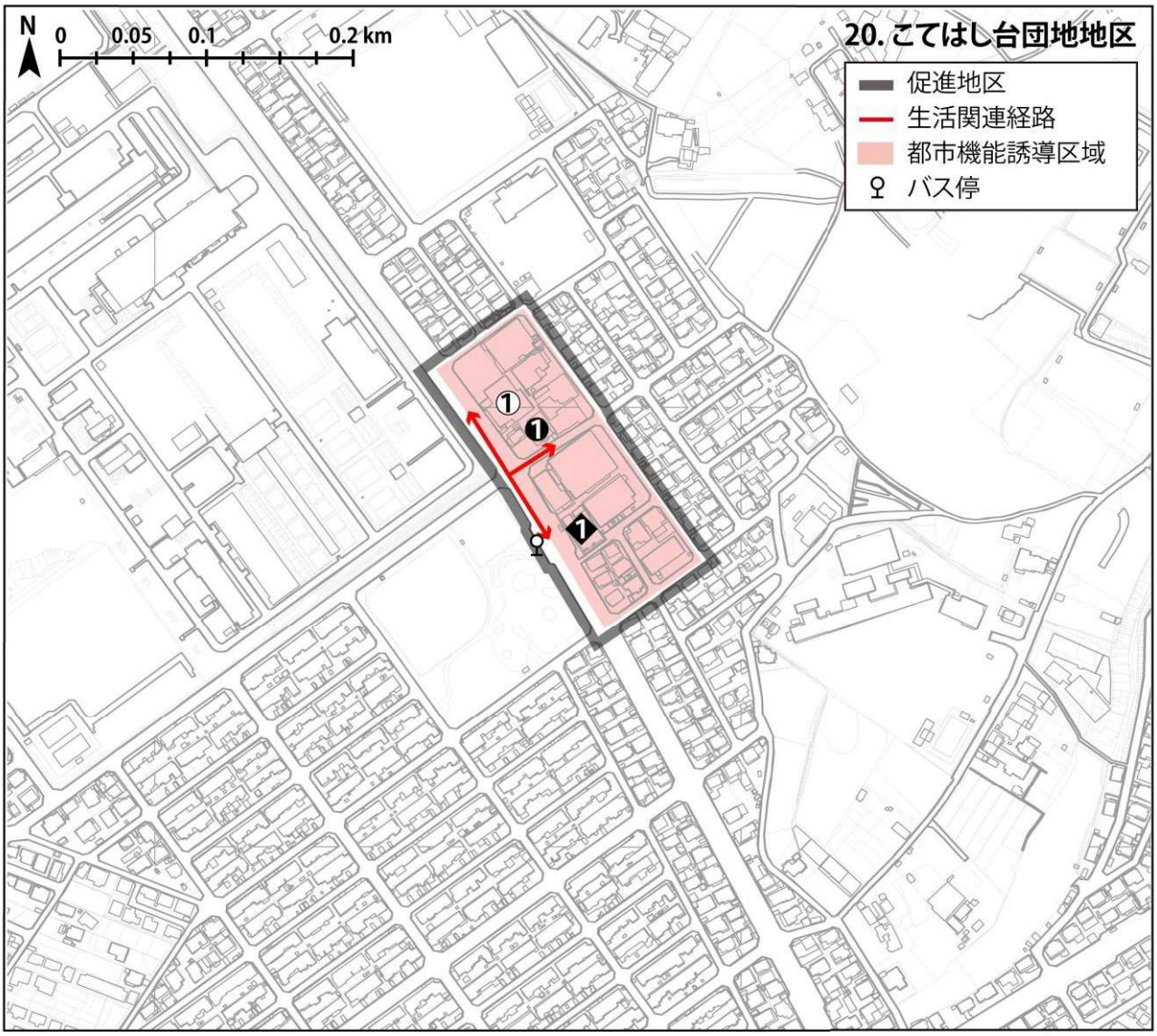
こてはし台団地地区は 500m 圏人口が促進地区のうちでも JR 海浜幕張駅地区に次いで少なく、高齢化率が最も高い地区です。

こてはし第三バス停からおおむね 100m 程度の範囲内に公共施設、福祉施設、文化施設が立地しており、コンパクトに都市機能誘導区域が設定されています。

バスは八千代市内の京成勝田台駅方面へのアクセスが比較的充実していますが、一部バス停留所においては、休憩施設等の設備が十分でなく、利用環境の向上が必要となっています。また、バス停留所には視覚障害者誘導用ブロックが設置されておらず、停留所から生活関連施設間の経路において移動の連続性の向上が求められます。

■バリアフリー方針

- バス停留所の利用環境の向上、及びバス停留所と生活関連施設間の安全・安心な誘導を図ります。



種別	番号	施設名称
公共施設	❶	千葉こてはし台郵便局
福祉施設	◆❶	千葉市あんしんケアセンターこてはし台
文化・教養・教育施設	①	花見川図書館

千葉こてはし台郵便局

花見川図書館

21 さつきが丘団地地区

■地区の概要

位置づけ （立地適正化計画）	連携地域拠点	
面積（促進地区）	4.8ha	
バス便数	さつきが丘第二	210（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
生活関連施設数	5 施設	
生活関連経路延長	約 700m	
500m 圏人口	6,366 人	※さつきが丘第二バス停を中心に 500m 圏の範囲で算出 （2015 年国勢調査 4 次(500m)メッシュ）
500m 圏高齢者数	2,095 人	
500m 圏高齢化率	33%	
従前の基本構想からの主な変更点	都市機能誘導区域が指定されている団地で、さつきが丘市民センター、花見川郵便局、さつきが丘公民館、千葉市あんしんケアセンターさつきが丘、さつきが丘いきいきセンターを含むよう地区設定	

※バス便数は千葉市立地適正化計画データより

■地区の特徴と課題

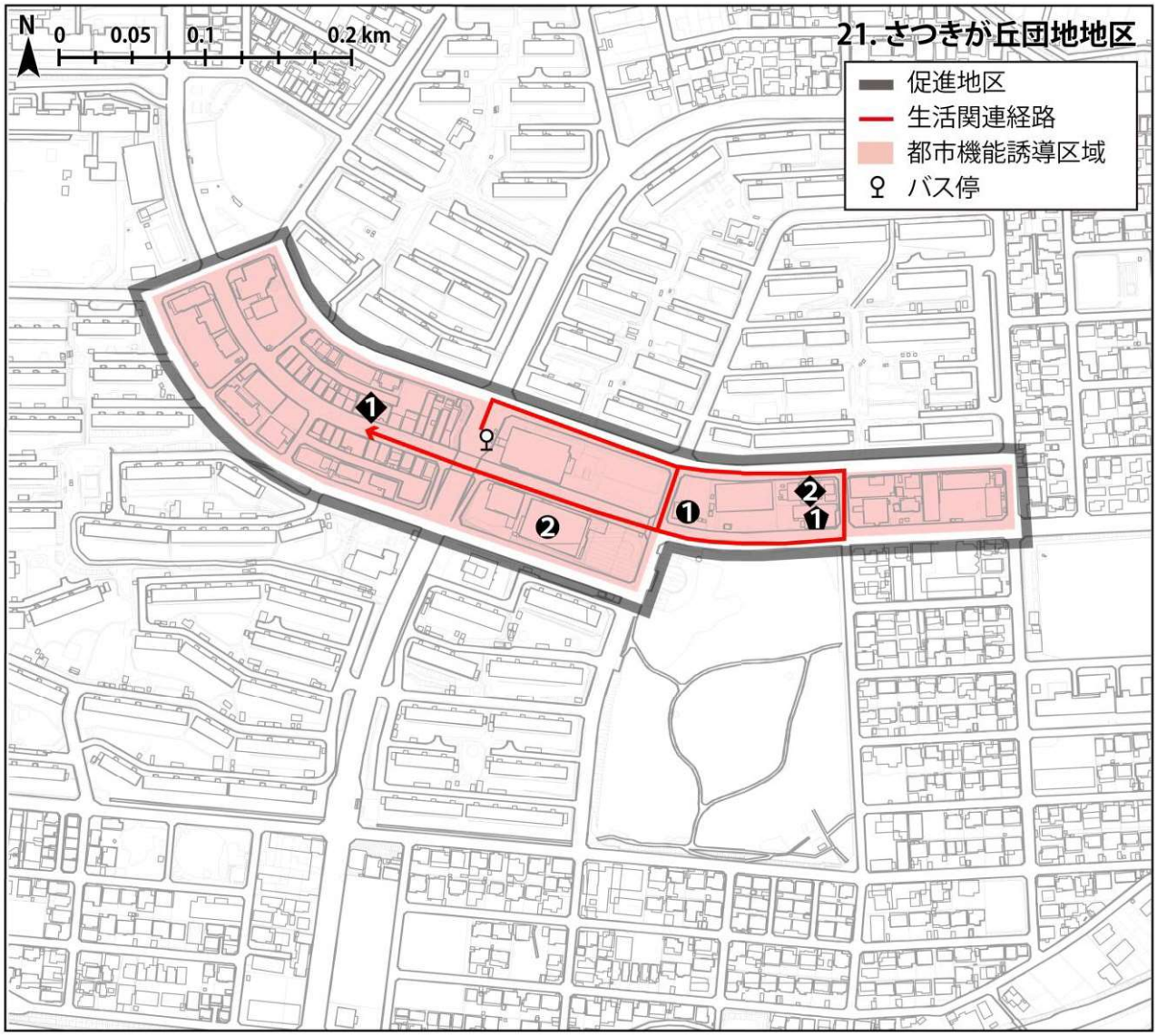
さつきが丘団地地区は 500m 圏人口が促進地区のうちでも平均的で、高齢化率の高い地区です。バス停から 200m 程度の範囲内に公共施設や福祉施設が立地しており、東西に細長く都市機能誘導区域が設定されています。

バスは JR 新検見川駅方面のアクセスが充実しています。

バス停留所前面の道路と立体交差する形で歩行者専用道があり、商店街や生活関連施設が面しています。道路との高低差があり、最短経路が階段や坂道となっていることから、施設への安全なバリアフリー経路がわかりにくい箇所が見受けられます。

■バリアフリー方針

- バス停留所の利用環境の向上、及びバス停留所と生活関連施設間の安全・安心な誘導を図ります。



種別	番号	施設名称
公共施設	❶	さつきが丘市民センター
	❷	花見川郵便局
集会施設	❶	さつきが丘公民館
福祉施設	❶	千葉市あんしんケアセンターさつきが丘
	❷	さつきが丘いきいきセンター

さつきが丘市民センター

さつきが丘公民館

22 花見川団地地区

■地区の概要

位置づけ（立地適正化計画）	連携地域拠点	
面積（促進地区）	7.6ha	
バス便数	花見川交番	155（本/日）・片道（上下線平均）（2017 年）
生活関連施設数	4 施設	
生活関連経路延長	約 570m	
500m 圏人口	9,167 人	※花見川交番バス停を中心に 500m 圏の範囲で算出（2015 年国勢調査 4 次(500m)メッシュ）
500m 圏高齢者数	3,728 人	
500m 圏高齢化率	41%	
従前の基本構想からの主な変更点	都市機能誘導区域が指定されている団地で、花見川市民センター、花見川団地内郵便局、千葉市あんしんケアセンター花見川、花見川図書館花見川団地分館を含むよう地区設定	

※バス便数は千葉市立地適正化計画データより

■地区の特徴と課題

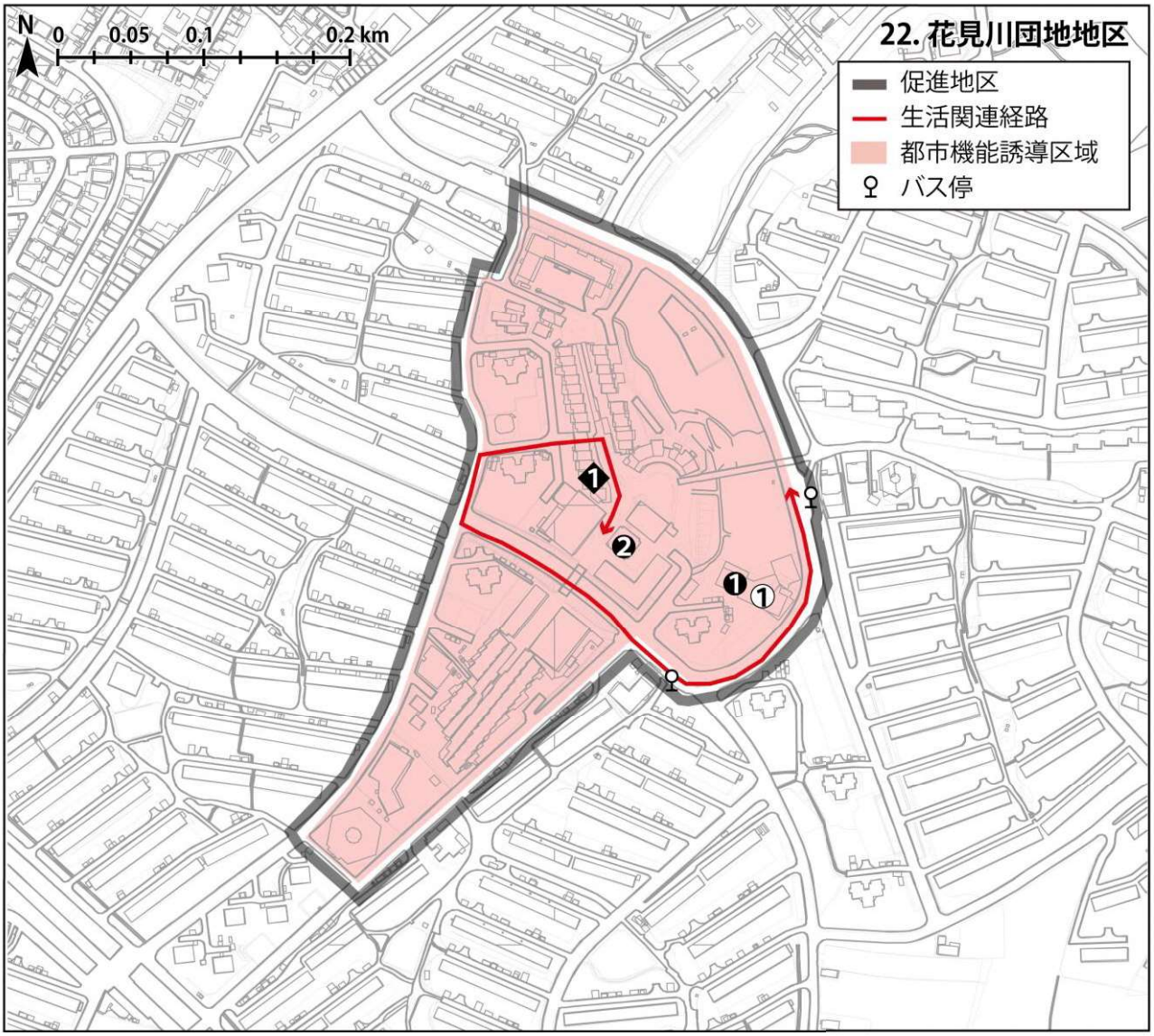
花見川団地地区は 500m 圏人口が促進地区のうちでも多く、高齢化率の高い地区です。バス停からおおむね 100m の範囲内に公共施設や福祉施設が立地しています。

バス停留所前面の道路に対して高台に団地を形成しており、生活関連施設の一部も立地しています。道路との高低差があり、最短経路が階段や坂道となっていることから、施設への安全なバリアフリー経路がわかりにくい箇所が見受けられます。

視覚障害者誘導用ブロックは花見川図書館花見川団地分館付近にのみ設置されており、全体的な新設が必要です。

■バリアフリー方針

- バス停留所の利用環境の向上、及びバス停留所と生活関連施設間の安全・安心な誘導を図ります。



種別	番号	施設名称
公共施設	❶	花見川市民センター　※1
	❷	花見川団地内郵便局
福祉施設	❶	千葉市あんしんケアセンター花見川
文化・教養・教育施設	①	花見川図書館花見川団地分館　※1

※は同一建築物内

千葉市あんしんケアセンター花見川

花見川図書館花見川団地分館
・市民センター

第７章　全市における取組の促進

全市においてバリアフリー化の取組を促進していくにあたり、施設整備などによるハード面におけるバリアフリー化とあわせて、心のバリアフリーや情報のバリアフリーなどソフト面のバリアフリー化の促進が必要です。

平成 26 年に批准した国連の障害者権利条約、平成 28 年に施行した障害者差別解消法などにより、「障害の社会モデル」、すなわち「障害」とは個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって創り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務であるという考え方が明確化されました。

本市においても、パラスポーツ大会が頻繁に開催され、試合観戦や体験を通して、子どもから大人まで、身近に障害及び障害者に関する理解と認識を深める機会が増えてきております。

しかしながら、新型コロナウイルスなどの感染症拡大の危惧による声かけの減少などにより、これまで以上に高齢者、障害者等が移動や施設の利用に不便が生じている状況も指摘されており、ソフト施策の充実がより一層求められております。

これらの社会情勢の変化を踏まえ、関連する本市の個別部門計画とも連携し、バリアフリー化の促進のために必要な全市的な取組として以下を促進していきます。

7.1　心のバリアフリーの促進

バリアフリー法に基づく基本方針の改正（令和２年６月施行）では、移動等円滑化の促進に関する住民等の理解の増進及び協力の確保に関する事項を促進方針に記載することが明記されました。

これを踏まえ、心のバリアフリー等に係る以下の取組を検討・促進し、誰もが自然に助け合い、快適に過ごせる環境を整備していきます。

①高齢者、障害者等との交流の場を設置し、ふれあうことによるバリアフリーの意識づくりを推進します。

②講演会や研修を実施し、高齢者、障害者等への理解を広めます。

③学校教育や生涯学習等で、介助体験、疑似体験、パラスポーツ体験に取り組むなど、あらゆる世代で高齢者、障害者等への理解を深めるとともに、バリアフリーに対する意識を高めます。

図 58　まち歩き点検ワークショッ

図 59　パラスポーツ体験

④本市職員等関係者に対し、対応要領に沿った計画的な研修を実施します。
⑤障害者差別に関する相談窓口を設置し相談に対応するとともに、講習会などの啓発活動を実施します。
⑥各種障害者等に関するマークの啓発・広報を行い、配慮が必要な人に関する正しい知識及び理解を促進します。
⑦バリアフリー学習や広報を通じ、障害者等用駐車ますの適正な利用などを含めた交通及び設備利用に関するルールの徹底とマナー向上を図ります。
⑧違法駐車・駐輪、はみ出し看板類等、円滑な移動を阻害する行為の防止に関して、道路管理者と交通管理者が連携して、市民や事業者に理解と協力を求めるための啓発・広報活動を実施します。

7.2 情報のバリアフリーの促進

⑨バリアフリー化された施設の情報を、駅周辺のわかりやすい場所に掲示するなど、バリアフリーに関する情報が得やすくなるよう取り組みます。
⑩インターネットを活用し、人的サポート体制の状況やバリアフリー化の取組状況等、バリアフリーに関する情報を一元的に提供します。
⑪バリアフリーマップ（千葉県：ちばバリアフリーマップ）によるバリアフリー情報の提供を行っていきます。
⑫道路や公園などの維持管理を徹底するため、市民による意見投稿システム「ちばレポ」の周知を図ります。

7.3 施設整備に伴うバリアフリー化の促進

⑬施設整備や改修等の事業機会を捉え、各事業者や施設設置管理者等が本マスタープランに掲げたバリアフリー化促進に向けた配慮事項を踏まえてバリアフリーに係る整備を推進することにより、市全域でバリアフリー化の促進を図ります。

7.4 外出支援の取組の促進

⑭福祉有償運送事業や福祉タクシーなどの福祉移送サービスの利用を促進することにより、高齢、肢体不自由、内部障害、精神障害、知的障害等により単独での移動や公共交通機関を利用することが困難な人にとっての、日々の生活を支える第二の足を確保します。
⑮移動を介助するヘルパーやボランティアの活動を促進、周知します。

7.5 地域における一体的な取組の促進

⑯地域の実情に応じて地域住民と連携し、バリアフリー化等の環境整備を促進します。
⑰災害時に避難行動要支援者の避難を可能にするため、地域で避難支援を行う体制の整備に努めます。
⑱公立小中学校等におけるバリアフリー化等の環境整備を推進します。

第８章　バリアフリーマスタープランの実現に向けて

以下に示す推進の枠組みにより、バリアフリーマスタープランの実現を推進していきます。

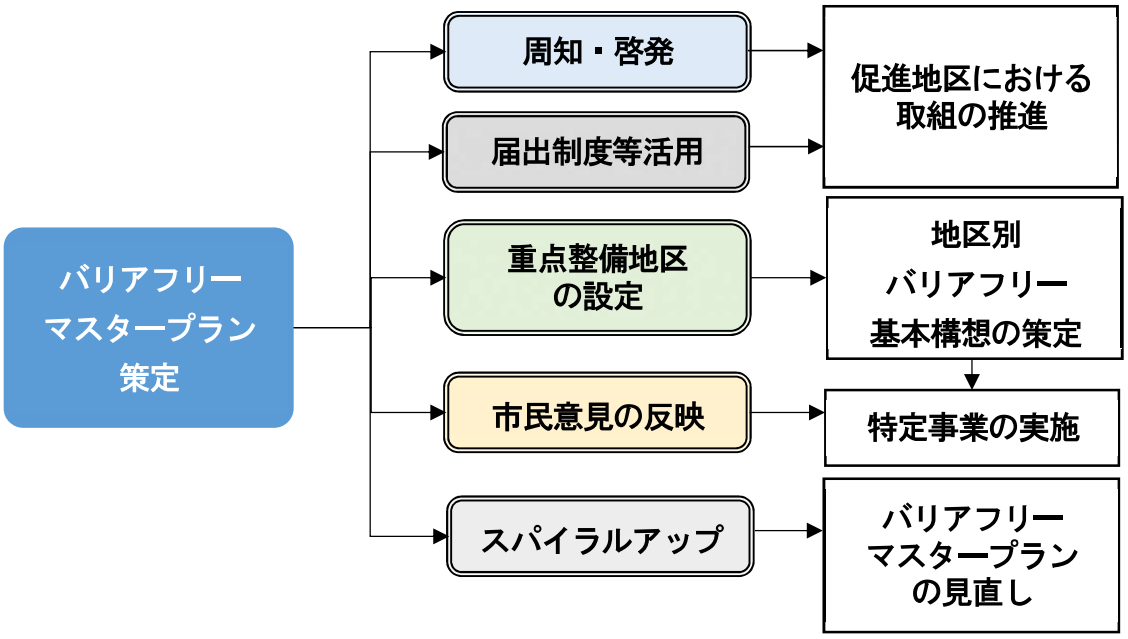


図 60　バリアフリーマスタープランの推進の枠組み

8.1　市民及び関係事業者へのマスタープランの周知・啓発

本マスタープランに基づく取組を推進するため、事業者説明会等を開催し、生活関連施設に設定した施設の施設設置管理者をはじめ、関係する事業者や庁内の関係所管へマスタープランの内容を周知していきます。

また、本マスタープランの進捗状況や、今後作成予定の基本構想、特定事業計画の内容など、バリアフリー施策の推進に関する情報を一元的にまとめ、市民に提供できるよう本市のホームページ等において情報公開を行います。また、前章に示した心のバリアフリーの促進にもあわせて取り組むことで、バリアフリーに対する市民意識の醸成・啓発に努めます。

8.2　届出制度等による事業内容の調整

マスタープランにおける促進地区では、旅客施設の建設、道路の新設等であって、他の施設と接する部分について移動等円滑化に支障を及ぼすおそれのあるものをしようとする公共交通事業者等又は道路管理者は、当該行為に着手する三十日前までに市町村に届け出ることとされています。

市は、届出に係る行為が移動等円滑化の促進を図る上で支障があると考えられる場合、届出者に対し必要な措置の実施を要請できることとなっており、これによりバリアフリー化に配慮した事業内容への調整を図ります。

届出対象となる施設及び行為は次のとおりです。

表 27　届出対象となる行為

届出施設	届出対象となる行為（施行令第 25 条）
旅客施設 （生活関連施設）	下記の部分の新設又は構造若しくは配置の変更 ・ホームから他の旅客施設（生活関連施設）との間の経路 ・ホームから生活関連経路である道路（駅前広場を含む道路法による道路）との間の経路 ・当該施設に接する公共用通路等（道路以外）※との間の経路 ・ホームから連続したバリアフリールートとなる出入口
道路 （生活関連経路）	下記に接する道路（駅前広場を含む道路法による道路）の新設、改築又は修繕 ・旅客施設（生活関連施設）の出入口 ・旅客施設（生活関連施設）に接する公共用通路等（道路以外）※

※下線部についてマスタープランで指定するものとされている

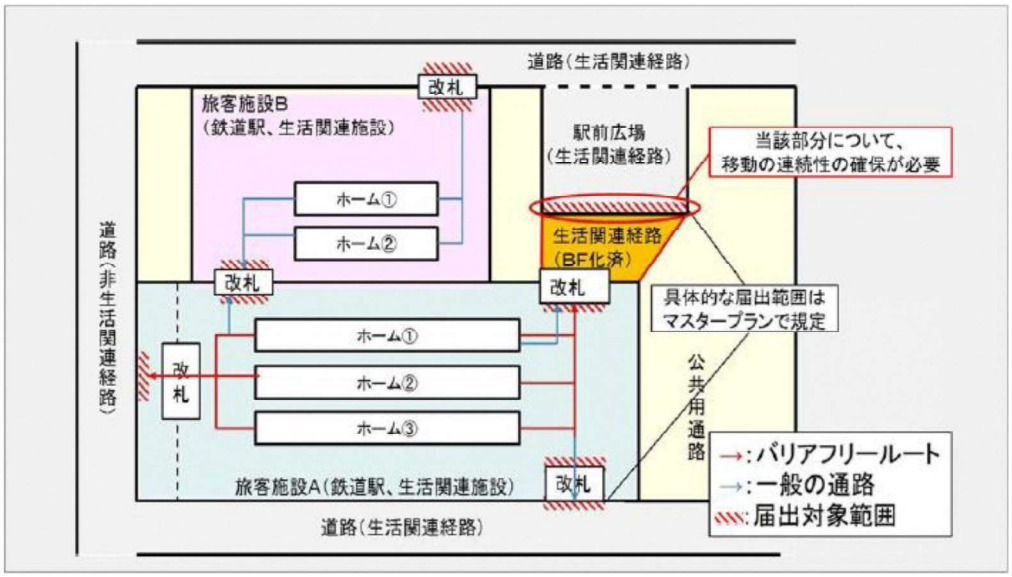


図 61　届出対象範囲のイメージ

（出典:移動等円滑化促進方針･バリアフリー基本構想作成に関するガイドライン）

市内の駅出入口や駅前広場は基本的に道路法による道路となっており、生活関連施設である旅客施設で出入口の新設や改変を行う際には、原則として届出の対象となります。また、通路による乗換経路がある場合や、駅出入口から道路に出るまでに道路以外の公共用通路等を経由する場合は、それらの通路等との間の経路に改変がある場合も届出対象とします（商業施設へ直結する出入口等は対象となりません）。

道路においては、駅出入口と接する部分の新設や改築、修繕を行う場合には全て届出の対象とします。また、道路から駅出入口までに道路以外の公共用通路等を経由する場合は、それらの通路と接する部分における行為も届出対象とします。

届出の対象となる事業として旅客施設周辺におけるまちづくり事業や駅前広場再整備事業等が考えられますが、これらはバリアフリー化促進への影響が大きいため、事業着手前の届出だけでなく、計画段階、設計段階において関係者と十分な調整を図って共通認識を確保するよう努めるとともに、事業内容に関する市民意見の反映の機会を設け、地元住民等だけでなく、高齢者、障害者等の意見が整備に活かされるように留意します。

このほかにも、届出対象となることが想定される事業の計画が明らかになった段階で、マスタープランに記載した配慮事項等を踏まえた整備がされるよう、関係者との調整や、必要に応じて市民意見の反映の機会の設定に努めます。

8.3 重点整備地区の指定と基本構想の策定

今後、バリアフリー化の実現に向けて、事業化が見込まれる地区等を、重点整備地区として定めるため、基本構想を策定していきます。

バリアフリー化の事業主体となる公共交通事業者、道路管理者、公安委員会、建築物や公園、路外駐車場の施設管理者及び教育啓発を行う主催者は、具体的なバリアフリー化に向けた事業（以下、特定事業等）を設定し、ハード・ソフト両面のバリアフリー化を推進していきます。また、定期的にバリアフリー化の進捗状況を点検していきます。

8.4 重点整備地区における事業実施段階での市民意見の反映及び相互理解の促進

重点整備地区における特定事業等の実施段階においては、市民意見の反映や相互理解の促進のため、市民や関係団体、事業者との意見交換等を実施し、具体的な事業や取組について、千葉市バリアフリー基本構想推進協議会へ報告、公表するといった仕組みを検討します。

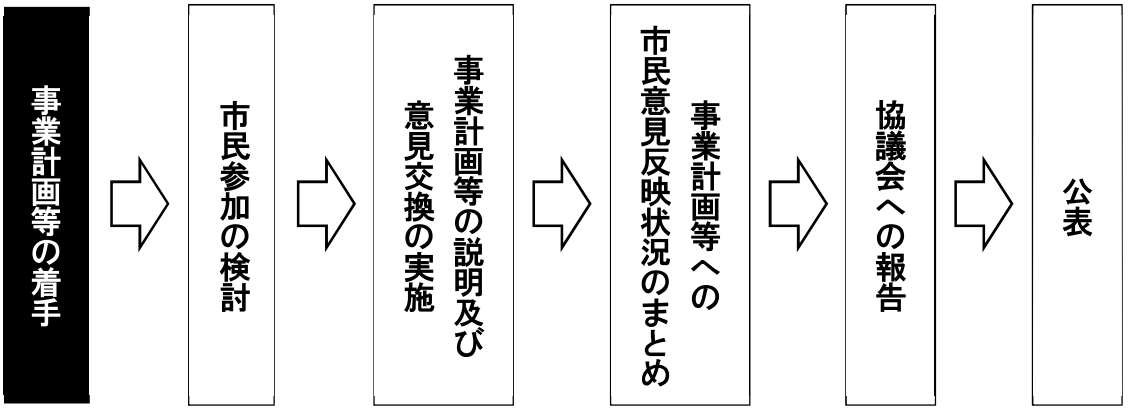


図 62　市民意見の把握及び相互理解の促進の仕組み（イメージ）

8.5 マスタープランの段階的かつ継続的な見直し（スパイラルアップ）

本マスタープランは 3.4 に示したように、令和 12 年度（2030 年度）までを計画期間としています。中間年度である令和７年度（2025 年度）には、マスタープランの中間評価を行うとともに、促進地区の追加提案を受けた場合は、必要性等を考慮し、重点整備地区の追加指定と合わせて検討を行い、千葉市バリアフリー基本構想推進協議会での審議を踏まえ、段階的かつ継続的な見直し（スパイラルアップ）を図ります。

また、計画期間の最終年度には、マスタープランに掲げた取組の進捗状況や社会情勢の変化、バリアフリーをとりまく環境、技術、人々の意識等を踏まえ、内容の見直しや、必要に応じて改定を行い、引き続きバリアフリー化の継続的な発展を図っていきます。